

令和5年度 小・中・養護学校

人権教育の実践収録



千 曲 市
千曲市教育委員会
千曲市学校職員会

はじめに

千曲市学校職員会長 柳澤 正寿（屋代中学校）

9月に卒業生であるポーランドワルシャワ日本人学校の教頭である坂本龍太朗さんがウクライナ人家族と一緒に本校に来校しました。皆さんもご承知の通り、坂本さんは、2022年2月にロシアによるウクライナ侵攻が始まってから、ポーランドへの避難民を支援し、ウクライナへの支援活動も行っているらしいです。坂本さんは、「日本人としてできることは何か」「一度だけの自分の人生に与えられた使命は何か」と生徒に向けて熱いメッセージを残してくださり、生徒の心の中に「ウクライナの人のために今の私たちにできることはないか」と自分の今とこれからについて振り返る機会を与えていただきました。



11月には、同じく卒業生の飯島春光先生に人権親子講演会をしていただきました。飯島先生は、更埴教研集会でも何年にわたって平和教育の講演をしていただいていますので、ご存じの方も多いと思います。以下は飯島先生の講演を聞いた生徒の感想です。

飯島先生のお話は、今回が3回目で、聴き慣れた話なのかなと思っていましたが、やっぱり学びがありました。ぼくたちに身近ないじめなどが、もしかしたら戦争のような重大なことににつながるのではないかと思います。そして、今回のお話は今ちょうど学習している人権にもかかわってくるものです。僕たちの未来のために、こういうことを真剣に学んでいきたいです。（2年）

私は小学生の時に飯島先生のお話を聞いたことがありましたが、中学生になってから聞くと、社会で習ったことが、お話と結びついて、より理解することができました。日本が戦争をしていた時代に生まれていなかった私たちには経験がなく、知識が不十分であるから、差別が起きていると分かりました。正しい知識を身につけることが、私達にできる一番の方法であると知って、自分自身、今日のお話を聞いて知らなかったこともあったので、まだ学びが足りていなかったのだと感じました。新たに知ったことをもとに、自分の考えを直していきたいと思います。（3年）

飯島先生は、同じ学区の東小学校でも平和に関わる講演会をしてくださっています。東小出身の生徒にとっては、二番煎じとならないかと心配しましたが、杞憂でした。むしろ、大切なことは繰り返し何度も何度も伝え続けることでより深い気づきや学びが生まれることを学びました。

人権感覚は、自然に身につくものではなく、努めて磨くことで高まるものであります。

いくつになっても、どこにいても、何度でも自分の行為を振り返り、自分の良心に向き合っていくことが求められています。

本冊子には、今年度の千曲市内の小中学校の人権感覚を磨いた貴重な実践が掲載されています。各校の実践に学び、私たち教職員自身はもとより、多くの皆様に活用していただくことで、誰もが幸せを感じられる千曲市に近づける一助になるものと信じています。

事例をまとめてくださった先生方、事例を束ねてくださった千曲市関係部局の皆様のご労苦に深く感謝申し上げます。

令和6年2月

四

次

1.	「権利の熱気球」	千曲市立屋代小学校5年……………	1
2.	「みんなの怒りスイッチ」	千曲市立東小学校2年……………	3
3.	「ふわふわことば」	千曲市立埴生小学校1年……………	6
4.	「ある日のキックベースから」	千曲市立埴生小学校3年……………	8
5.	「みわこの日記」	千曲市立埴生小学校5年……………	10
6.	「泣いた赤おに」	千曲市立治田小学校4年……………	12
7.	「伝え合い、わかり合うクラス会議」	千曲市立八幡小学校3年……………	16
8.	「分けへだてない行動「ちょっと待ってよ」」	千曲市立戸倉小学校4年……………	18
9.	「ちがいのちがいに」	千曲市立更級小学校4年……………	21
10.	「デジタルの手がかり」	千曲市立五加小学校1年……………	26
11.	「ふわふわことばの シャワーをかけるよ」	千曲市立上山田小学校2年……………	30
12.	「人の心に寄り添う」	千曲市立屋代中学校……………	35
13.	「人権教育実践報告～部落差別を知る～」	千曲市立埴生中学校……………	39
14.	「令和5年度人権教育の実践（2学年） ー後期人権強調月間の学習からー」	千曲市立更埴西中学校2年……………	43
15.	「部落差別とのたたかい」	千曲市立戸倉上山田中学校1年……………	45
16.	「私の水平社宣言」	千曲市立戸倉上山田中学校2年……………	47
17.	「社会に生きる一人として」	千曲市立戸倉上山田中学校3年……………	49
18.	「ありがとう いのち～幼児の生活と家庭より～」	長野県稲荷山養護学校中学部……………	52

主題名「権利の熱気球」

千曲市立屋代小学校 5 年

1. 主題設定の理由

人権の本質やその基礎をなす人間の尊厳や価値の重要性、自他の人権を尊重することの大切さなどについて児童が理解し、自他を人間として尊重しようとする態度を身につけることが求められる。

屋代小学校の5年生はキャンプなどの行事や児童会活動などの諸活動を協力しようとし、休み時間も友だちと仲良く遊ぶ姿が見られる。反面、友だち関係が固定化してしまったり、時に言葉遣いが荒くなってしまったりする傾向が見られる。

そこで、身近にある様々な権利の順位付けをする体験活動を通して、様々な権利があること、人権という人間が生きる上で不可欠で重要な諸権利があることに気づかせ、グループ活動を取り入れ、友だちの考えを交流し合うことで、人権の根拠となっている人間の尊厳や価値を感じ取っていくことを願いこの主題を設定した。

2. 主眼

身近にある様々な権利の順位付け（ランキング）を個々で考えたり、グループで話し合ったりする活動を通して、人間が生きる上で欠かせない諸権利があることを知り、人間の尊厳・価値について尊重しようとする態度を育てる。

3. 指導上の留意点

- ・ 難しい権利の内容については説明をした。
- ・ 順位がつけられない児童については、個別に助言をした。

4 展 開（授業記録）

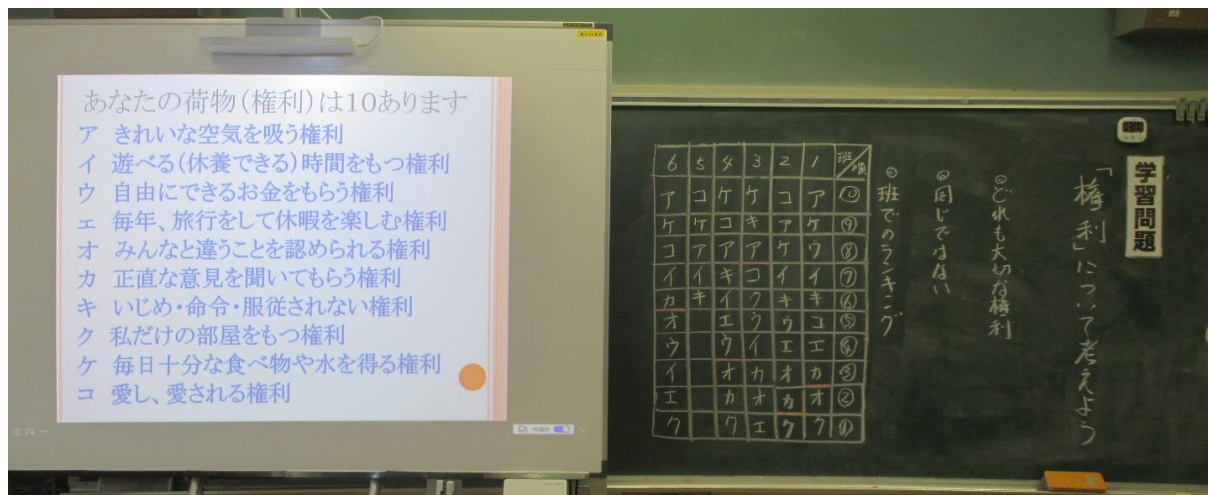
	教 師	子どもの反応	備 考
導入 10分	○「権利の熱気球の授業をします。」 と言って気球の映像を出した。 ○気球について以下の説明をした。 ・ だんだん気球が下がってきてしまった。気球にある荷物（権利）を捨てないと海に落ちてしまいます。 ・ どの荷物（権利）を捨てたらいいかまずは自分で考えましょう。	・ 気球は知っている。 ・ 見たことある。 ・ 空気が温まることで空を飛ぶのは理科でも習った。 ・ いくつかの荷物（権利）を捨てれば助かるんだな。 ・ これってどんな権利だろう。 ・ どの権利から捨てようかな。	・ パワーポイントを使いながら説明した。
展 開 25分	学習問題：権利について考えよう。 （身の回りの10個の権利を順位づけしてみよう。） ○10個の権利を提示して考えさせた。 ①自分で順位づけをする。 ア きれいな空気を吸う権利 ウ 自由にできるお金をもらう権利 オ みんなと違うことを認められる権利	イ 遊べる（休養）できる時間をもつ権利 エ 毎年、旅行をして休暇を楽しむ権利 カ 正直な意見を聞いてもらう権利	

	キ いじめ・命令・服従されない権利 ケ 毎日十分な食べ物や水を得る権利 ②グループで順位づけをする。 ・自分で考えた権利をグループの人たちと話し合い、1つにした。 ・どうしても残しておきたい所に赤線を引くようにした。 ○グループで考えた順位(1位～10位)を班ごとに発表した。 ・どこで赤線を付けたかも発表。	ク 私だけの部屋をもつ権利 コ 愛し愛される権利 ・1位と2位は同じ順位だね。 ・1つにするのは難しいな。 ・ここまでは捨てられるから赤線をここで引こう。 ・僕たちの班の1位ク、2位オ、3位カ、4位エ、5位コ… ・赤線は2位と3位の間です。	・10個の権利のあるパワーポイントとプリント配布した。
終 末 10 分	○感想を記入して発表した。	・意外とみんな違うのだなと思った。どの権利も必要だったので決めるのが難しかった。 ・権利はたくさんあってどれもだいたいなものばかりだった。色々な権利があることがわかった。 ・「そうかもしれない。」「たしかに！」と勉強になった。	

5. 授業後の反省

- ・権利を順位付け(ランキング)することで権利の内容について考える機会となったが、順位を付けられず迷っている児童も見られた。
- ・パワーポイントなどの映像を映しながら進めたことで、児童が内容を理解して考えることができた。
- ・自分で考えた順位をグループで1つにする場面で、話し合いでスムーズに決まる班もあれば、なかなか順位がまとまらず困っている班もあった。
- ・グループで話し合うことで友だちの考えを知る機会となり、自分とは違う価値観を交流し合う機会となった。

6. 授業後の板書



主題名『みんなの怒りスイッチ』

千曲市立東小学校 2 松組
(自閉症・情緒障害児学級)

1. 主題設定の理由

日常生活の様々な出来事に遭遇したときに、自己表現できなくそのままにしまったり、言葉にすることができずに自分でイライラしたり周りに当たったりする子が多い。他害や自傷行為に陥ることが多い実態がある。

そういう子どもたちに日常生活でありそうな場面を設定し、それに対してしてどう思うかを言葉にしたり、周りの子たちの考えを聞いたりすることで、周りの子の考えや言い方を自分なりに取り入れて、自分の表現にしてほしいと考え、本主題を設定した。

また、単学年ではない様々な学年が在籍し、国語面での学習につまずきが見られる子たちが、抵抗少なく言葉にできるように、カードやシート、穴うめ文など、抵抗を少なく、気軽に取り組めるような学習場面を設定した。

2. 主眼

カードに示されているできごとが自分にとってゆるせるのかゆるせないのかを考え、立場を決めて自分の意見を言うことを通して、自分の意見をより強く持ったり、友だちの意見を参考に考えを変更したりできる。

3. 指導上の留意点

- ・友だちの発言に対して否定したりからかったりはしない（人を傷つけない）、出来事について気にしすぎない（自分を傷つけない）ようにする。
- ・正解不正解や勝ち負けはないので、深く考えすぎて、他人や自分に対して、当たったりしないようにする。

4. 展開および授業記録の概要

	学習活動	児童の反応	教師の指導・助言	時間	備考
導入	1. 出来事を想定して、自分がどの立場かを決めて意見を言うこと、その際のルールを知る。	・すぐに決められない ・ぜったい、ゆるせないだよ。	・あまり深く考えずに、その時の気持ちで判断するようにさせる。 ・勝ち負けや正解不正解がないことを伝える。	5	・できごとカード ・3重埋丸シート
	様々な「こんな事があったら」という場面に対して、自分の立場を決めて、自分の考えを周りに発表して、意見を深めよう。				
展開	2. 提示されたカードに対して、自分の立場を、相手に示す。	・ぼくは、ゆるせるです。 ・わたしは、まあゆるせるです。 ・ぼくは、ゆるせないです。	・出来事に対して「ゆるせる」「まあゆるせる」「ゆるせない」のどの立場なのか、「せーの」の合図で、3重丸シートのどの立場かを指さす。 ・学校場面（クラス内、他学年、授業中、登下校場面）、家庭場面（宿題、親との会話）など様々な場면을提示する。	35	

	3. 立場を決めたら、理由を言ってみよう。 4. 友だちのそれぞれの意見を聞いてみよう。 2～4の学習を、出来事を変えて、繰り返す。	・ぼくは、ゆるせないです。どうしてかという、～だからです。 ・わたしは、まあゆるせるです。どうしてかという、～です。 ・わたしは、ゆるせるです。どうしてかという、～だからです。 ・そうか、そういう考えもあるのか。 ・でも、やっぱりぼくはゆるせないだな。	・「言い方シート」をもとに、自分の意見を言うようにする。 言い方カード ぼく、わたしは ゆる せ る・まあゆるせる・ゆる ないと思います。どうしてかという、～だからです ・理由の言えない子もいるので、立場だけは決めるようにする。 ・自分の立場と違うのには、理由があることを知るために、「どうしてかという」との部分を教師側がその理由に対して、掘り下げられるように、具体的な言葉にしてい		・言い方シート
終末	5. 授業を振り返り、感想を言う。	・ぼくは、だいたいゆるせないだな。 ・場面によって、立場が変わるな。	・「自分の立場を持てたか」「シートを使って意見を言えたか」「他人の意見を聞いたか」をふり返り、確認する。	5	

5. 児童の姿

「おはよう」と友だちに声をかけたら、返事がなかった。

- A：わたしは許せないです。どうしてかという、声をかけたのに帰ってしまったからです。
- B：ぼくは許せないです。どうしてかという、返事をしないからです。
- C：わたしはまあ許せるです。どうしてかという、聞こえなかったかもしれないからです。
- D：わたしは許せないです。どうしてかという、…。

好きな給食のおかずの量が他の子より少ない。

- A：わたしは許せるです。どうしてかという、給食が少なくてもいいからです。
- B：ぼくは許せないです。どうしてかという、ぼくだけ違うのはおかしいからです。
- C：わたしは許せるです。どうしてかという、まちがってしまったかもしれないからです。
- D：わたしは許せるです。どうしてかという、…。

今やろうと思っていたのに、親から「早く宿題しなさい」と言われた。

- A：わたしは許せないです。どうしてかという、今やろうと思っていたのに、言うからです。
- B：ぼくは許せないです。
- C：わたしはまあ許せるです。どうしてかという、あとでやればいいからです。
- D：わたしは許せるです。どうしてかという、…。

いっしょに帰ろうと約束していた友だちが、何も言わずに別の友だちと帰ってしまった。

A：わたしは許せないです。どうしてかという、約束したのに何も言わないで、帰ってしまったからです。言えればいいのと思った。

B：ぼくはゆるせないです。どうしてかという、先に帰っちゃったからです。

C：わたしは、まあ許せるです。どうしてかという、後で言うかもしれないからです。

D：わたしは、許せないです。どうしてかという、約束を破ったからです。

A・B児ともに、立場が「ゆるせない」という考えが多かった。理由として、出来事そのままの事を言っている傾向があった。普段、B児は、なかなか言葉にできず、他とのトラブルが多い。出来事に対して、起こったことのみが目が向きがちだが、今回他の意見も聞いていたので、様々な立場や理由があることを感じられたのではない、このような機会を繰り返していくことが必要ではないか。

C児は、中間「まあ、ゆるせる」の立場が多かった。理由としても、「～があったかもしれない」という観点で意見を言っている感じがかった。A児やB児にとっては、違った価値観を意識させる良い機会になったと思われる。

D児は、立場ははっきりと示せていたが、理由について最初は言えなかったが、後半は言えるようになってきた。「言い方シート」を使い、他の人の言い方を聞くことを繰り返す中で、言えることができたのではない。立場をもてたことを評価することで、言えるところまで自分は言えているという気持ちで、今度は理由を言ってみようという気持ちになれたのではないかと考える。

6. 反省

・意見がもてない（学習ノートやカード未記入、意思表示が不明瞭など）意見が言えない子が多い。言葉にできずにトラブルが多い子や、クローズクエスチョン（選択、はいいいえなど）の答え方が多い子にとっては、今回の手だては有効だったのではないか。（クローズクエスチョンからオープンクエスチョンのスモールステップとして、立場の明確化、文形式を定型にしたこと）

・題材として、気軽に取り組める場面や環境設定をし、意見をもつことやいうことに抵抗をなくしていくこともよかったのではないか（自分の生活に近い場面だが、自分ではない）

・相手の理由について、さらに自分の質問や意見を言うような場面が設定できなかった。「どうして、～さんはそう思うのですか」のような質問の仕方や話し合いの流れなどの手だてを今後取り入れていくことが必要に感じた。

7. 資料

「みんなの怒りスイッチをさがせ！」 合同出版

日本アンガーマネジメント協会：監修

高橋晋平：協力

主題名『ふわふわことば』

千曲市立埴生小学校 1 学年

1. 主題設定の理由

入学して5か月が過ぎ、友だち同士のつながりもふえてきた。お互いに声をかけ合って遊び、次に遊ぶ約束をしている姿も微笑ましい。一方で、何気なく使った言葉からトラブルになる場面も出てきている。相手の気持ちを考えた言葉づかいの大切さを感じてほしいと考えて、本主題を設定した。

2. 主眼

友だちが「うれしいな」と思う言葉について話し合ったり、ふり返ったりすることを通して、相手の気持ちに寄りそって言葉を交わそうとする態度を育てたい。

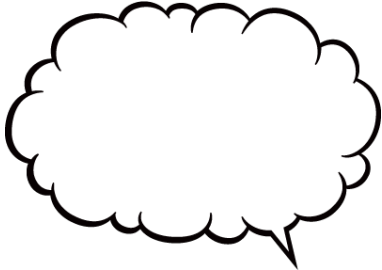
3. 指導上の留意点

- ・日ごろの生活をふり返って「ちくちくことば」を確認するが、具体的には出させない。

4. 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1 「ふわふわことば」とはどのような言葉をいうのかを確認する。	・ふわふわは楽しい ・やわらかい ・やさしい ・わたあめみたいにあまい ・きもちいい	○「ふわふわことば」と聞いてどんな気持ちになる言葉だと思いますか？ ・ふわふわの印象を確認しクラスで共有する。	5	
展開	2 ふわふわ言葉について、話し合う。 ・ふわふわ言葉にはどんな言葉があるのか、具体的に考える。 ・それぞれの言葉を発表する。	・「～～」は言われてうれしかった。 ・それは自分もそう思う。	・日常生活で自分が言われて感じた気持ちを元にして書くよう促す。 ・なかなか書けずにいる子には個別に声がけをする。	25	ワークシート
終末	3 これからの学校生活でどんな言葉を使っていくかを考える。	・これからは自分もふわふわ言葉を使いたいな。	・明るく前向きな雰囲気で行われるように心がける。	5	

5. 授業記録の概要

段階	教 師	児童の反応	時間
導 入	板書：ふわふわことば	字を声に出して読む。それぞれのイメージを いい感じ・うれしい・たのしい等出す。	5
展 開	○ふわふわ言葉ってどんな言葉？ 	・言ったことがある。言われたことがあると言 う発言があり、具体的な言葉もはじめに言っ た子の意見が参考になったようで、たくさん 出た。 ・ありがとう よかったね ・一緒にあそぼう ・すごいね えらいね ・がんばっているね ・だいじょうぶ	3 5
終 末	○みんなは友だちと話すときにふわふわの言葉を 使いたいんだね。ふわふわって感じるのは友だち だから、気持ちを考えてふわふわにしたいね。	・ふわふわがいいと言う声があがった。 ・いいよね、とうなずきあっている子がいた。	5

6. 反省

- ・「ありがとう」「すごいね」「いっしょにあそぼう」「なかまにいれて」「どうしたの」「ずっとともだちだよ」「たすかるよ」など、いろいろな視点から言葉が出てきたのはよかったと思う。子どもたち自身も、ふわふわことばにはいろいろあるのだなと納得する様子が見えた。

7. 資料

あけぼの（低学年）より

人権教育実践記録 主題名『ある日のキックベースから』

千曲市立埴生小学校 3 年

1 主題設定の理由

3 年生は、とても元気で明るく、友だちとも積極的に関わることができる児童が多い。休み時間は外で元気に体を動かし、サッカーなどして皆で遊ぶ姿がみられる。友だちの関わりにおいては、自分の気持ちが優先になり、相手のことを考えずに行動してしまったり、休み時間にはけんかなどトラブルになったりすることも多い。後で考えると行動を振り返ることができるが、その時は相手の気持ちを受け止めるより自分の感情が優先してしまい、友だち同士で解決できないこともある。

子どもたち同士が自分たちで折り合いを付けながら、お互いに気持ちよく遊ぶためにはどうしたらいいか。トラブルやけんかになる前にお互いに気付いて声を掛けたり関り合ったりするためにはどうしたらいいか、実際の学級での出来事から「親切・思いやり」「相互理解・寛容」の道徳的観点について考え、今後の自分の在り方やクラスの友だちへの関り方について考える機会にしていきたいと考え、この題材を設定した。

2 主 眼

学級のキックベースでの出来事を振り返り、よかったことや課題、次回のめあてについて話し合うことを通して、思いやりをもって接することやお互いの思いを受け入れることのよさや大切さに気付くことができる。

3 指導の留意点

- ・実際のキックベースを振り返る中で、相手を責めてしまったり、自分の気持ちが素直に言えなくなったりしないように「居心地のいいクラスにするための話し合い」という視点で行う。

4 展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導 入	1 前回体育の時間でのキックベースについて振り返る。	・チームの友だち同士、けんかになってしまって楽しいキックベースにならなかった。 ・チームが勝たなかったから本当はセーフなのに「アウト」と叫んでしまった。 ・むきになって強い言い方をしてしまった。	・「これからみんなで過ごすクラス、楽しい居心地のいいクラスにするために、キックベースのことを振り返り、心の中にあることを皆で出し合おう」と伝える。 ・「だれが悪い」ということでなく、キックベースをして感じたこと、行動（自他）、気持ち、自分のことでも友だちのことでも安心して話していいことを伝える。	15	・キックベースの時の写真
展 開	2 楽しいキックベースにするために、どうしたらいいかを考える。	・勝たたいけれど、ルールを守って試合をすればよかった。 ・文句を言うんじゃなくて優しく言えばよかった。	・自分の思いを素直に話せるよう、どのような考えも肯定的に受け止めながら聞く。 ・子どもの発言のキーワードを整理しながら板書する。	20	
終 末	3 今後学級で活動していく時に大切にしたいことを考える。	・友だちのことを考えて協力して楽しくやりたい。 ・みんなで協力したい。 ・みんなで仲良く楽しくしたい。	・これからクラスで活動していく時に、どんなことを大切にしてみんなで楽しいクラスにしていきたいかを考える。 ・ワークシートに思いを書き、発表する。	10	・学習カード

5 授業記録の概要

	教師	児童の反応	時間
導入	これからみんなで楽しく居心地のいいクラスにするために、前回の「キックベース」について振り返ってみよう。 (前に進むために、心の中で思ったことを皆で出し合うことの大切さも伝える。)	- 自分のチームが勝ちたいからって、文句を言われていやだった。 - 励ましてくれた友だちがいた。 - 試合の最中に、悪口を言われて嫌だった。 - 頑張ってるのに「足遅い」とか言われて悲しかった。 - ベースを踏んだのかしっかり見えなかったのに、どうしても勝たなくて「1点じゃなくて2点だよ」と強く言ってしまった。 - うまくいけない友だちに「何でできないの?」と強く言ってしまって友だちが泣いてしまった。 - みんなで協力しなくちゃいけないのに、友だちや審判に協力できずに試合が進まなくなってしまった。	20
展開	次回、みんなが楽しいと思えるキックベースにするためにはどうしたらいいかを考える。	- 優しい言葉で言えるようにしたい。 「上手だね」「頑張れ」「ファイト」とかチーム同士で声を掛けたい。 - うまくいけない友だちに「きっとできるよ!」って言ってあげたら勇気が出ると思う。 - ちゃんとルールを守らないとみんなが楽しくできないからだめだと思った。ルールを守りたい。 - 見ている人(審判)が言ったことをちゃんと守る。 - もし、悔しくて何か言いたくなったら、心の名で言えば、嫌な思いをする人がいなくなる。そうしたい。	15
終末	これからクラスやみんなと活動する時に大切にしたいことについて考え、学習カードに記入する。	- 負けても勝っても、友だちのことを考えて楽しくできるクラスにしたい。 - 最後までみんなで楽しくできるように優しい言葉を言い合うことを大切にしたい。 - 楽しくしっかりできるために、相手の気持ちを考えてやりたい。	10

5 反省

体育の授業での「みんなで楽しくできなかったキックベース」の出来事を通して、子どもたちは自分や友だちの行動や気持ちを振り返り、その時感じたことや思ったことを正直に出し合い、話し合いをすることができた。人に言われると素直に認めるのが難しいことも、みんなで思いを言い合い共有することで、自分やクラスの良かったことだけでなく良くなかったことも素直に正直に話すことができた。みんなと楽しく活動するためには自分本位ではなく、相手の気持ちを考えたり受け入れたりすることが大切だということに気づき、子どもたち自らで次の目標を出し合うことができた。

自分たちの体験、困り感から、どう考え行動していくかを真剣に考える機会になった。次のキックベースでは、ぐっと気持ちをこらえて相手や自分のプレーを受け止めたり友だちに前向きに声がけをしたりしている姿が多くみられ、道徳の学習が生きている様子を感じることができた。自分たちで目標をもち、実行し、そこから振り返りをして、次回の願いを考えるというサイクルが道徳においても大切だと感じた。

人権教育実践記録 主題名『みわこの日記』

千曲市立埴生小学校5年

1 主題設定の理由

集団との同一性を常に意識し、自分や集団にとって異質な考え方や存在を排除しようとする傾向があることを知らせ、周りに流されず差別や偏見に立ち向かうためにはどうしたらよいかを考えさせたいと願い、本主題を設定した。

2 主 眼

現段階の学級を振り返り、いじめにあいながらもそれに屈せず、たくましく、やさしく生きるみわこの行為を通して、理想の学級実現には、差別や偏見に対して立ち向かっていく強い意志が必要であることが分かる。

3 指導の留意点

- ・自分たちの学級において一人ひとりの違いが大切にされているかなど、まず自分たちの学級集団を見直す。
- ・みわこがいじめを受けた3校目（前半）と、4校目の大介に対するいじめの解決（後半）と分けて、話し合う。

4 展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導 入	1 理想の学級について話し合い、クラスの現状を確認する。	・差別・区別のない学級。 ・みんなで仲良く遊ぶクラス。 ・休み時間に1人で遊んでいる人がいないクラス。 ・楽しく遊ぶクラス。	・「理想の学級とは、どんな学級だろう。」 ・理想の学級にしていけるために、自分の行動を頭の中で振りかえさせる。	10	
展 開	2 「みわこの日記」前半部分を読み、3校目のいじめについて考える。 3 後半を読みいじめのターゲットが変わった時を考える。	・もう学校に行きたくない。 ・また転校したい。 ・なんで私がこんな目にあわないといけないの。 ・ちょっとは気持ちが悪かったかな。 ・反省してもまだ許せない。 ・同じ苦しみを味わわせたくない。 ・大介君も自分と同じでかわいそう。 ・いじめの標的がまた自分に変わったらいやだから、伝えるだけにしたい。 ・私が伝えたことがばれたら、私がいじめられる。	・「バイキン扱いされ、机に落書きされたみわこの気持ちはどんなだっただろう。」 ・「どんな思いでみんなに発言したのだろう。」 ・「どんな葛藤をしながら、先生に日記を書いたのだろう。」 ・大介を助きたい気持ちと、自分を守りたい気持ちの両方を考えさせることで、みわこの強い思いに気付くことができるようにする。	25	・あけぼの ・学習カード
終 末	4 理想の学級実現に向けて、自分の行動を考える。	・自分がされてうれしいことをしよう。 ・見て見ぬふりをしないで、誰でもいいから相談しよう。 ・周りに流されず、正しいと思ったことを行動する。	・理想の学級実現に向けて、自分ができると、しなければならぬことは何だろう。」	10	・学習カード

5 授業記録の概要

	教師	児童の反応	時間
導入	・「理想の学級とは、どんな学級だろう。」	・悪口や陰口を言わない。相手が嫌がることをしないクラス。 ・差別、区別のない学級。いじめがないクラス。 ・みんなで仲良く遊ぶクラス。 ・楽しく遊ぶクラス。	10
展開	・「バイキン扱いされ、机に落書きされたみわこの気持ちはどんなだっただろう。」 ・「どんな思いでみんなに発言したのだろう。」 ・「どんな葛藤をしながら、先生に日記を書いたのだろう。」	・もう学校に行きたくない。 ・また転校したい。 ・なんで私がこんな目にあわないといけないの。 ・ちょっとは気持ちが伝わったかな。 ・反省してもまだ許せない。 ・同じ苦しみを味わわせたくない。 ・大介君も自分と同じでかわいそう。 ・いじめの標的がまた自分になったらいやだから、伝えるだけにしたい。 ・私が伝えたことがばれたら、私がいじめられる	25
終末	・理想の学級実現に向けて、自分ができること、しなければならぬことは何だろう。」	・自分がされてうれしいことをしよう。 ・見て見ぬふりをしないで、誰でもいいから相談しよう ・だまってそのままにすると、悲しい気持ちの人がいる ・周りに流されず、正しいと思ったことを行動する。	10

6 反省

人権週間だからこそ、様々なテーマにおける身の回りの差別を考えられるように、「日本から植民地政策を受けた韓国、あだ名で呼ばれたとき、ロールプレイを通し仲間外しをした時・された時、見て見ぬふりをした時」など、それぞれの立場になって気持ちを考えることで、差別はいかに理不尽に相手を傷つける許されない行為であるかを考えることができた。特に、本主題については、導入で自分たちの学級の現状を確認したことで、自分達の学級にも起こりうる問題として捉えることができたように思われる。いじめの側といじめられる側だけでなく、それを見ているだけの傍観者の存在にも思いを寄せながら考えることができていた。これからも、自分と他者とのかかわりにおいて、実際に行動ができていっているかを見ていき、機会があるごと今回の学習を振り返り確認していきたい。

7 資料

- ・「みわこの日記」（あけぼの）
- ・学習カード

主題名「泣いた赤おに」

千曲市立治田小学校4年

1 主題設定の理由

ギャングエイジ真っ只中の本学級の子ども達。賑やかに元気に過ごしている。男女の仲は比較的よいのだが、女子だけの集団となると難しい面もある。興味や関心が同じで、気が合う人と小グループにブを作る傾向や、言いたい事を本人にはっきり言わないで、先生や他の友だちに言うなどの姿も見られる。全体的に見ると、友達との距離感もとれるようになり、小さなトラブルなら自分達で解決できるようにはなっている。距離感をとれる反面、本音を言わないままに中途半端で解決してしまったり、表面に出てこない部分で、友達の非を許せなかったり、自分の非を認められなかったりで、信頼関係がぎくしゃくする事もある。また、友達との関係を保つために、いけない事を「いけない。」と言えなかったりする事もある。

本主題『泣いた赤おに』は、どこまでも相手の事を思って行動する青おにの友情が、子ども達の心に強く訴えるお話である。青おにの手紙を読んで赤おにが涙を流す場面に自分の気持ちを重ねる事で、青おにと赤おにの真の友情について考え、本当の信頼や助け合いとは何かを考えることができる。

友だちと仲良くしたいという思いは、相手の思いを尊重することにもつながること、「真の友情」とは何かを考えてほしいと願い、本主題を設定した。

2 主眼

友だちとの衝突を避けるために本音を言えなかったり、友だちに嫌われたくないために、嫌な事を断れなかったして、友だちとの信頼関係を保つ事に難しさを感じ初めてきた子ども達が、青おにのおかげで人間と友だちになれた赤おにが、青おにの手紙を読んで涙を流した時の気持ちを考え合うことを通して、真の友情の素晴らしさに気づくことができる。

3 指導上の留意点

1. なるべく全員に発表させるように、指名での発言も考慮する。
2. 内容を把握し易いように場面の絵を大型テレビで掲示する。

4 展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1. 友達とは、どんな人と言うのでしょうか。	・困った時に助けてくれる。 ・一緒に遊んでくれる。	・それぞれ友達の友達観を語り、関心を持たせる。	5	
	2. 資料を読む。			5	

展開	・話の内容を整理する。 3. 赤おにの気持ちを考える。 ①青おにに「ぼくが村に行つてあばれよう。」と言われた時。 ②人間と仲良くなれた時。 ③青おにの手紙を読んだ時。	・うれしいな。 ・いい考えだ。 ・いいのかな？ ・よかった。 ・楽しいな。 ・どうして？さみしい。 ・こんなはずでなかった。ごめんなさい。 ・君こそ友だちなのに。	・あらすじを振り返らせる。 ・赤おにの葛藤をおさえる。 ・学習カードに書かせた後。全員に発表させる。	25 0 5	場面ごとの絵 学習カード
	<中心発問> 青おにの手紙を読んで、涙をながす赤おにの気持ちを考えましょう。				
終末	5. 友だちとは、どんな人というのでしょうか。	・自分の事より相手のことを考えられる人。 ・相手に優しくできる人。	・友だち観の変容に	10	学習カード

5 授業記録の大要

	教師	児童の反応	時間
導入	1. 「いつも友達のことを考えて生活していると思いますが、みなさんにとって友だちとは、どんな人ですか。」	・ いっしょに遊んでくれる人。 ・ 優しくしてくれる人 ・ 困っている時に助けてくれる人。 ・ いっしょにいて楽しい人。	5
展開	2. 資料を読む。 「お話は、分かりましたか？」 挿絵を張りながら、 「この絵は、どんな場面？」と問いながらあらすじを追う。		5

開	3.「青おにの考えを聞いて、赤おには、どう思ったでしょう。 「本当にいいのかな？と迷う気持ちもあったんだね。」	・「なるほどいい考えだ。」と思った。 ・本気でなぐれるかな。 ・やってもいいのかな。	3
	4.「人間たちと仲良くなれた時、赤おには、どんな気持ちだったでしょう。」	・とてもうれしかったと思う。 ・青おにさん「ありがとう。」って気持ち。	2
	5.「青おにさんの手紙をよんで、赤おにさんは、泣いていますね。切ない顔をしていますね。この時の赤おにの気持ちを学習カードに、書きましょう。」		1 0
	6.「書いた事を発表してください。」	・自分のことを一番に考えてくれる青おに君が、いなくなって、とても悲しい。何てばかなことをしたんだろう。 ・戻って来てほしいよ。だって、人間とはただお茶ういお飲むような関係だけど、青おに君は、ぼくのことを一難に考えてくれるから。 ・ぼくが悪かった。ごめんよ。人間となんて友達になりたいなんて思わなきゃよかったよ。 ・人間と友だちになるより、青おに君といた方がいいよ。ぼくのことを大事にしてくれるから。 ・君がいないと生きていけないよ。だって、人間より君の方がいいもの。	1 0

終末	7.「友だちとよりよい関係をつくっていくために大切なことは、どんなことでしょうか。今日の学習を振り返りながら、学習カードに書きましょう。」	・友達が困っている時、相談にのる。「大丈夫？ 手伝う？」ときく。 ・友達がいそがしい時、一緒に協力する。 ・相手の気持ちを考える。 ・算数や国語が分かんなかったら、そっと教える。 ・体調が悪そうな時、「一緒に保健室に行く？」ときく。	10
----	---	--	----

6. 反省

- ・赤おにのにとって、どうして青おにが人間よりもかけがえない存在なのか、その理由まで考えることが、少しできた。
- ・「友だちとよりよい関係をつくっていくために大切なことは、どんなことでしょうか。」に対して、学習カードを読むと、子どもなりの文章表現だが、真の友情について考えて書けたものが多かった。

「伝え合い、わかり合うクラス会議」

千曲市立八幡小学校 3年

1 主題設定の理由

大切な人権感覚として、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」ものがある。このことは、言葉で伝えてもできるようになるものではない。態度や行動に現れるようになるには、学校生活の中で、自分の大切さや他の人の大切さが認められていることを児童自身が実感できるような場を生み出すことが大切だと考える。しかし、「他の人を大切にすることにおいて、自分のことを我慢して他の人を優先してしまう」「自分を大切にしない」とことと勘違いして学んでしまうことも少なくないのではないだろうか。

そのために、本学級では「クラス会議」に取り組んできた。「クラス会議」とは、アドラー心理学を背景にした集団カウンセリングの手法を用いたミーティングである。

このクラス会議を通して、「自分も他の人も大切にすること」気持ちを育てていく。

2 クラス会議の目的

クラス会議の目的は、共同体感覚の育成である。共同体感覚とは、アドラー心理学の中核的概念であり、提唱者のアドラーは、「自分のことだけを考えるのではなく、他の人にも関心をもっていること」と説明している。クラス会議では、話し合いを行う。どんなことを話し合うかというと、「おたのしみ会をしたい」「クラスのルールを決めたい」などのクラス全員にかかわる課題を話し合うことはもちろん、「朝、早く起きられない」「忘れ物が多くて困っている」などの、個人の悩みにかかわる課題も取り扱う。そして、話し合いの形態は、全員が椅子だけで輪になり、輪番で話していくなどがある。これには、発言の対等性や傾聴の姿勢などを育てるという明確な目的がある。

3 今年度の取り組みの概要（特別活動：およそ月に2回実施してきた）

（1）7月

議題（提案者）	内容 （・代表的な出た意見 ○提案者が選んだ意見）
弟が怒ってきて、けんかしたくないのについてしまう。どうしたらけんかしないですか。 （A児）	・ 弟が怒っている理由を聞く。 ・ 素直に謝る。 ○ なんで弟が怒っているのか自分で考える。 ・ 「やめて」と言う。 ・ 無視をする。 ・ お母さんに言う。 ・ ごまかして鬼ごっこにして遊ぶ。

議題は、教室にある議題箱に、話し合ってもらいたいことがある時に入れるようになっている。クラス会議の流れは、「①提案者が議題について話す②議題についての質疑応答③1人ひとり、輪番で意見を言う④意見についての質問などをして意見について深める⑤議題提案者が意見の中から、それについて自分が行動を起こす1つを決める」というものである。A児がこの時選んだ意見は、「なんで弟が怒っているのか自分で考える。」というものだったが、担任には、なぜこの意見を選んだのだろう？と不思議だった。しかし、次の日の朝、A児は登校後すぐに担任のところに来て「先生、大丈夫だった。みんなのおかげで。」とつぶやいた。弟とけんかせずに済んだのだという。

(2) 12月

トイレのいたずらがなかなかなくならない。どうしたらよいか。(担任)	・ポスターをつかってトイレに貼る。 ・入るトイレを指定する。 ・1人でトイレに行かず、使用後誰かにチェックしてもらう。 ・お悩み相談をする。 ・ふわふわ行動をしてみんなをいい気持ちにする。
-----------------------------------	--

トイレへのいたずらが続いたため、本学級の児童だけが使用しているトイレではないが、議題に出して話し合うことにした。初めは、罰を与えたり監視したりすることを考えていた児童が多かったが、ある児童が「やる人は心にモヤモヤがあるからやっちゃうんだから・・・」と意見を出したところ、どこか他人事だった雰囲気から真剣になり、「心のモヤモヤを解決するには」についての意見になっていった。

4 成果

子どもたちはクラス会議を楽しみにしている。自分の議題が話し合いになることもうれしい様子である。それは、みんなが聞いてくれる、みんなが意見を言える対等性と、わかってもらえる共感性があるからだ考える。議題提案者が議題について話している時、「あ～、わかるわかる。」と共感の声が上がることがよくある。それだけで、解決案が出なくても、議題提案者にとって「みんなに考えてもらえた＝大切にしてもらえた」ことになり、解決に向かう力が湧いてくるようである。それは、クラス会議の翌日の朝の会で、解決したことをとてもうれしそうに議題提案者が報告する姿からうかがえる。また、意見を言う側にとっても、どんな意見も尊重し耳を傾けてもらえることから「自分は、友だちの役に立っている」と感じるができる。それは、自分の大切さにつながると考える。このことから、クラス会議を楽しみにする姿があるのだろう。育てたい人権感覚である「自分も他の人も大切に」気持ちが育ってきていると考える。

主題 分けへだてない行動「ちょっと待ってよ」

千曲市立戸倉小学校4年

1. 主題設定の理由

4年松組の児童は、活発であり自分の想いを積極的に伝える力はあるが、人の話を聞くことが苦手な側面がある。相手の気持ちを考えて行動する事がなかなかできず、自分勝手な発言や行動が目立つ。そこで、「相手の立場に立って考える。そこから自分の行動を見つめ直す。」ということ、学級活動でクラスのめあてとして児童と共通認識し、相手の気持ちを考えて行動しようとする心を育てたいと考えた。

本題材は、教室内で起こりうる問題を、児童が第3者の視点で考えることができる。「人によって態度を変える」という分かりやすい問題と、「けがをしている子には作業をさせないで見ていてもらうことが、けがをしている児童に気を配っているようでいて、実はけがをしている児童本人にとっては、切ない出来事である」という、少々難しい問題にもふれることができることに価値がある。

そこで、主人公がため息をついたときの気持ちや、「ちょっと待ってよ。」と声をかけたときの気持ちを考えるようにすることで、言われた相手がどう思うか主人公の立場で考えることができるだろう。

本授業を通して、相手の立場に立って、相手のことを理解する力を育てたいと考え、本主題を設定した。

2. 主眼

相手意識をもって接することの大切さを学ぼうとしている子ども達が、1の場面や、2の場面で登場人物の気持ちを考える場面で、仲間の考えを聞いて自分の考えを見つめ直す活動を通して、相手の気持ちを深く考えようとすることができる。

3. 指導上の留意点

- ・コロナ禍だったということもあり、グループ活動の経験が不足しているため、話し合いの進行が滞らないようにするために、司会のセリフや、流れの紙を準備する。
- ・読みとりが浅くならないように、机間巡視をして適切に助言する。

4. 展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1. 1の場面を読む。	・女子ばかり冷たい態度をとるのはよくないよね。 ・男女差別だ。 ・京一の態度はよくない。	・標的になりやすい登場人物がいるので、発言に気をつける。	5	
展開	2. グループで登場人物の気持ちを考える。	・正広くんは、やられた人じゃないけど、なんでため息をついたのだろう。 ・見ている人も気持ちよくないよね。	・グループでの話し合いが滞らないように話し合いのすすめ方を丁寧にする。	10	画用紙 ペン 司会計画
	3. 全体で共有する。	・同じ考えだ。 ・そういう考えもあるよな。		5	
	3. 2の場面を読み、グループで話し合う。	・指をけがしていたら、活動できないよね。 ・やらせなくてよかったんじゃないの？ ・けがをしてもできる活動はあるんじゃない？ ・決めつけはよくない。本人の話も聞かなきゃ。	自分ならどうするかという視点ではなく、なぜ、「ちょっと待ってよ。」という声かけがあったかを考えさせる。	15	
	4. 全体で共有する。	・同じ考えだ。 ・そういう考えもあるよな。			
終末	5. 今日学んだことを書きこむ。	・差別はよくないから自分も気をつけようと思う。 ・2の場面で、相手を気づかうことも大切だけど、相手の話を聞く事も大切だと思った。	・グループで話し合ったことから自分が考えたことを発表するよう助言する。	10	

5. 授業記録

<児童の反応>

1の場面

- ・男女で差別するのはよくないと思う。
- ・仲良い子だけ優しいのは差別だ。

※同様の意見が多数。

2の場面

- ・友治さんはつき指でけがをしても、手伝いたい気持ちがあったから、仕事をさせてもらえないのはかわいそうだ。
- ・友治さんに対して「作業が遅れるといけないしね」と平気で言える人に怒りを覚えた。
- ・自分が友治さんだったらそんなことを言われるとやだ。
- ・時間に余裕があれば、友治さんのために作業を延期してもよいのでは。
- ・友治の気持ちを考えないで、作業を早く終わらせることだけを考えるのはよくない。

※終末場面で1, 2の場面を通して、差別はよくないということと、相手の気持ちを考えて、公平な態度を心がけることの大切さを感じていた。

6. 反省

- ・2の場面では、読みとりが不十分で、京一や鈴花が心配していたことに焦点を当て、友治の気持ちまで考える事ができなかった児童がいたが、グループで話し合うことを通して、友治の気持ちに寄りそって考える事ができた。自分本意で考えてしまい、他者の気持ちを推し量ることが苦手な子達も、この話を通して、客観的な視点から公平に人と接することの大切さを学ぶことができた。

7. 資料

光村図書 道徳 4年

21

ちよつと待ってよ

【1】

正広のクラスで、クラス対抗の長縄大会に向けての練習が始まった。みんな、練習に夢中になってどんどんとんでいく。そのうちに、男子の一人が縄に足を引っかけた。京一が、明るく声をかけた。「ドンマイ」。

縄がふたたび回り始めた。しかし、すぐに鈴花が足を引っかけた。「なんだよ、しっかりしろよ」。

と、京一が、ふきげんそうに文句を言った。その後も、女子が失敗するたびに、いやな顔をした。

今度は、正広も足を引っかけた。京一は、「気にするな。さあ、次、次」と笑って言った。

女子たちが顔を見合わせ、何か言いたそうにしている。正広は、女子たちの様子が気になって、京一に目をやり、ため息をついた。

【2】

社会科の時間に、グループで調べ学習の発表資料を作ることになった。はさみで新聞を切りぬいて、画用紙にはり付けたリベンで書きこんだりする、細かい作業だ。

「のり付けなら、ぼくもてっだえるんだけど」。

正広と同じグループの友治が言った。友治は今、人さし指をつき指して、図書をまいている。

「その指だときれいにはれないだろ。見ていればいいよ」。

京一が作業をしながら言った。鈴花も、「作業がおくれるといけないしね」と言って、新聞の切りぬきを始めた。

友治は、しよんぼりしてすにすわった。

正広は、そんな友治を見て、思わず声を上げた。

「みんな、ちよつと待ってよ」。

1. 主題設定の理由

ある日の出来事である。教室で、一人の女の子が数人の男女に囲まれて泣いていた。話を聞いてみると、その女の子が、その日にある体育を休むというのでざわついていたのだった。「先生、A子さんが、理由も言わないで体育を休むって言っています」「そんなのいけないと思います」男子数人が責めていた。近くにいた女の子たちは、A子さんの頭をなでながら慰めていた。「先生、体育休んでいいんですか？」と担任に詰め寄ってきた。担任は数日前、A子さんの母親からA子さんが生理になったことを聞いていた。この日も母親から「A子さんは生理で、体育を見学したい」という連絡を受けていた。担任は、子ども達に「A子さんは体調が悪いんだから、無理して体育をしない方がいいんじゃないかな」と話した。A子さんの生理の話はしなかった。男の子たちはあまり納得しない様子で、ぶつぶつ言いながらその場を立ち去った。担任と女の子たちは、後味が悪い感じだった。クラスの人間関係にいやな思いを生んでしまったように感じた。

また、ある日の給食の時間、N男さんが「きのうテレビで、インドの人が手でご飯を食べているところがあって、すごーと思ったんだ。」と話した。それを聞いた子ども達は、「えー、手で食べるの？きたねー」「手で食べたら、病気になっちゃうよ」などと言ってびっくりしていた。

子ども達の生活を見ると、わずかな経験の中で形成されてきた価値観で物事を判断しがちである。事象に出会うと、自分中心に物事を考え判断し、善し悪しや優劣を決めていってしまいがちである。対象の裏側にある事情や真実には目が向かなかったり、考えが及ばなかつたりすることがほとんどである。

そこで、本題材を設定し、「あってもよいちがい」と「あるとよくないちがい」について考えさせ、社会の中にある様々なちがいについて考えさせ、よりよい人間関係がもてるようなことを願って、本題材を設定した。

2. 主眼

「あってもよいちがい」と「あるとよくないちがい」について考えることを通して、社会における「あるとよくないちがい」についての解決方法や対処の仕方について自分の考えを持ち、実践する態度を育む。

3. 指導上の留意点

- (1) 「あってもよいちがい」と「あるとよくないちがい」について自分の考えをワークシートに書き、グループで考えを交流し合う時、そう考えた理由も必ず発表させる。
- (2) 「良い、悪い」を決めるのではなく、いろいろな考え方があることに気づかせ、ちがいを尊重し合うことの大切さを感じ取れるようにする。

4. 展開

	学習問題	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1. めあてを確認する。	・ちがいを考えるのか。 ・どんなちがいを考えるんだろう。	本時の学習問題を提示する。	1	
	世の中にある様々なちがいについてかんがえよう				

終 末	5. 「あってもよいちがい」と「あるとよくないちがい」の特徴を考え、ワークシートに書く。	○「あってもよいちがい」と「あるとよくないちがい」の特徴をワークシート2に書く。 ・「あってもよいちがい」は、人や国などによっていろいろなことが違うから違っていいと思う。「あるとよくないちがい」は、差別になったり、不公平になったりすることだと思う。	・多様性として尊重すべきものやことと、差別や不公平につながるものやことは、そのちがいを見過ごしてはいけないし、いつも気をつけて人に関わっていかなくてはならないことに気づかせる。	7	・ワークシート2
	6. 本時の振り返りを書く。	○本時学習して思ったこと、感じたこと、これから実践していきたいことなどをワークシート3に自由に書く。	・「あってもよいちがい」と「あるとよくないちがい」について考えたことをワークシート3に書かせる。	3	

5. 授業記録の概要

	教師	児童の反応	時間
導入	1. 世の中には、食事のとりかた、牛乳が飲める人・飲めない人、スキーができる人・できない人、字のうまい人・うまくない人、目が見える人・見えない人、仏様を拝んでいる人・キリスト教を拝んでいる人・・・様々な人々が、この地球には住んでいます。そこで、今日は、世の中にある様々なちがいについて考えていきましょう。 〈学習問題〉 世の中にある様々なちがいについて考えよう。	・担任の話を聞きながら、世の中にいる様々な人々を思い浮かべていくだろう。 ・今日は、人々のちがいについて考えるんだな。	
展開	2. (ワークシートを配布する。) ワークシートには、さまざまなちがいを書いてあります。そのちがいは、「あってもよいちがい」でしょうか、それとも、「あるとよくないちがい」でし	・ほとんどの子は、どちらかなと迷っていた。 ・○はできるが、そう考えた理由が書けない子が結構多くいた。	

ようか」表のどちらかに○をし、そう考えた理由を書きましょう。 ・理由が書けない子は、グループで発表し合う中なかで、思いついたら書いていくように話した。 3. グループに分かれて、互いの考えを発表し合い、友達のことを聞いて、考えを深め合ひましょう。 ・話を聞いている中で、あれっ変だぞとか、おかしいよとか、自分はこう考えるなどと言うことがあったら、どんどん言い合ひましょう。 ・話し合って、自分の考えが変わった人は、ワークシートを書き直してもいいですよ。 4. クラス全体で考えを発表し合い、深め合おう。 ・グループワークの段階で子ども達のワークシートの内容を把握しておき、手が上がらない場合は、指名して発言させていった。 ・Yさんは②は「あるとよくないちがい」だと言っていますが、じゃ、ちがいをなくしていくにはどうしたらいいと思いますか。(切り返し発問) ・そうか、車いすの人がバスや電車に乗ろうとしていたら、手伝ってあげると乗ることができるんだね。そうすることで、ちがいはなくなるんですね。	・迷いながらも自分の考える方に○をし、その理由を書きこんでいった。 ○グループ（4人）に分かれて、自分の考えを発表し、友達のことを聞き合った。 ・互いに発表するだけで、話を深めていくというところまではなかった。 ・中には、友達のことを聞いて、あれ？と思った「ちがい」もあったようだった。 ・M男：ぼくは、①は日本でははしを使って食べるけど、インドでは手で食べるというのは、「あってもよいちがい」だと思います。だって、日本の人は昔からはしで食べているけど、インドの人は、みんな手で食べるのが当たり前だからです。 ・I男：ぼくもM男君に賛成で、日本とインドでは生活の仕方が違うから、日本でははしでも、インドでは手で食べていいと思ういます。 ・Y子：わたしは②は、「あるとよくないちがい」だと思います。わけは、車いすのBさんの電車やバスに乗って旅行に行きたいと思うからです。 ・Y子：わたしは、車いすの人がいたら、手を貸してバスに乗るのを手伝ってあげればいいと思います。	
--	--	--

	・そうですね。④のようなことを何と 言うかな。 ・そう、④は血液型で人を差別した例 ですね。 ※①～⑥まで確認し合う。	・K男：ぼくは、④は「あるとよ くないちがい」だと思いなく。だ って、血液型で仕事ができるでき ないは決められないからです。 C：差別です。	
終 末	5. 今まで考えてきた様々なちがいから、「あってもよいちがい」と「あると よくないちがい」のそれぞれの特徴を 書きましょう。 6. 今日の授業を振り返って、思ったこ とやこれから実践していきたいことな どを書きましょう。	○ワークシート 2 に記入する。 ・ほとんどの子が、なかなか書き 出せないでいた。 ・「あってもよいちがい」は、人そ れぞれ違うことで、「あるとよくな いちがい」は、それが差別になる こと。 ・「あるとよくないちがい」は不公 平になることだと思う。 ○ワークシート 3 に書く。	

6. 反省

- ・グループワークの中での話し合いは、発表だけになってしまい、考えを深めるまでにはいたらなかったため話し合いの時間を確保する必要があった。
- ・各違いについて考えさせたが、実生活と結びついていないことが多く、選択を迷う子がいたので、もっと自分たちの生活に寄せた選択肢にすればよかった。

1 主題設定の理由

(1) 児童の実態

○児童の姿

- ・本学級の児童は、時間やルールを守ってタブレットを使うことができる。
- ・困っている友だちに寄り添い、協力したり助け合ったりすることができる。
- ・考える前に発言や行動をしてしまい、友だちを傷つけたり周りに迷惑をかけたりしてしまう。

○教師の願いと指導

・教師の願い

本題材を通して、インターネットを使う時のみならず、日常生活の中でも「立ち止まる」「考える」「相談する」という態度を身につけ、よりよい学級生活や人間関係を築いてほしい。また、話し合いの中では、多様な相手の意見を受け止め、自分の考えを持つことにつなげてほしい。

・指導

インターネットで行動するときの3つのステップを確かめ、それを基に個人で考える。その後に友だちと話し合ったり学級全体で共有したりすることで、自分の考えを持つことにつなげていく。話し合いの際には、友だちの発言をよく聞き、受け止めることを大切にする。

(2) 題材設定の理由

○題材について

授業の中でタブレットを使う機会が増えてきている。子どもの中でも、ICT機器を使用することは楽しいことであり、興味関心が高く、日常生活の中でも、動画サイトやSNS等、インターネットを活用することが身近になっている。

本題材は、デジタルシティズンシップ教育の中でも土台となる心構えの一つ「直感的に反応するのではなく、立ち止まって考える。」に関わる題材であり、タブレットを使い始めた1年生にとって身につけてもらいたい内容である。

○題材のもつ価値

【1】個人的な資質を育む視点から

自分の考えを聞いてもらい、友だちの考えを聞いて受け止めることで、自分の考えに自信が持てる。

【2】社会的な資質を育む視点から

インターネット上にのせて安全かどうか考え話し合うことにより、自分でよく考えてインターネットを使おうという気持ちが持てる。

【3】自主的、実践的な態度を育む視点から

何か行動をするときに、立ち止まって、考えて、相談することの大切さが分かる。

(3) 人権教育とのかかわり

○載せる情報を自分でよく考えて、インターネットを使おうとすることができる。

(価値的・態度的側面)

○友だちの考えと自分の考えを比べ、違いを受け止めることができる。

(技能的側面)

2 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよ	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、

送るための知識や行動の仕方を身につけている。	い解決方法を意思決定して実践している。	他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。
------------------------	---------------------	------------------------------

3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
・ アンケートをとる ・ デジタル足跡について知る。	・ ロイロノートのアンケートを使って、自分たちの生活に課題意識がもてるように児童のデジタル環境や使用頻度の実態をつかむ。 ・ パワーポイントを使って、1年生にも分かりやすく、デジタル足跡について説明をする。 ・ 実際にインターネットを使ったときに困ったことや、こわいと感じたことなどはないか、聞く。	・ クラスの友だちのアンケート結果について、興味を持ち、自分の使用について振り返る。 【主体的態度】（アンケート・表情・発言）

4 本時案

（1）本時のねらい

デジタル足跡を知った子どもたちが、教師が投稿したい内容をもとにインターネット上に公開しない方がよい情報について考え、その理由を話し合うことを通して、安全を守るために自分なりに判断することができる。

（2）人権教育の視点

- ・ 載せる情報を自分でよく考えて、インターネットを使おうとすることができる。
（インターネットによる人権侵害・デジタルシティズンシップ教育含む）

（3）指導上の留意点

- ・ 人によって立場や環境が違うことから、様々な考えを受け止めて、自分だったらどう行動するかという視点を大切にする。
- ・ デジタル足跡については事前に学習しておき、本時ではふり返る程度で扱う。
- ・ デジタル足跡・・・引用文献資料（デジタル足跡ってなんだろう）より

（4）展開

◇人権教育に関わる配慮点

	学習活動	発問・予想される児童の反応	教師の指導	時	備考
導入	1 前回のアンケート結果や、授業をふり返る	○アンケートやこの前勉強したことを思い出しましょう。 ・ YoutubeやTikTokで動画を見ている人がたくさんいた。 ・ オンラインゲームで対決している人もいた。 ・ LINEでビデオ通話をする。 ・ 楽しいし面白いからみんな使っていることが分かった。 ・ 見てはいけない動画を見て、怖い思いをした人もいた。	・ 「YouTubeやTikTokを見る」「オンラインゲームをする」「LINEでビデオ通話をする」などの意見に対し、ネットは自分のしりたいことや、やりたいことをかなえてくれるものとして、そのよさを共有する。 ◇自分のことを自由に発表させ、お互いに聞き合う姿を認める声がけをする。	10	
	2 デジタル足あとについて確かめる。	○デジタル足あとってなんだったけ ・ インターネットで何をしたら残ること。	・ 以前学習したデジタル足あとについて、掲示してある資料を用いて確認する。		

	3 インターネットで行動するときの3つのステップを確認する。	・おすすめの動画とかを見るときに使われている。 ○インターネットで行動するときの3つのステップを確かめましょう。 ・インターネットを使う時はこれが大事なんだ。 ・五加小学校の目標に似ている。	・インターネットで行動するときの3つのステップ（「立ち止まる」「どうすればいいか、あんぜんかどうか、考える」「大人に相談する」）を確かめ、次の活動につなげる。		
展開	4 教師が投稿した内容をもとに、インターネット上に公開しない方がよい情報かどうかを考える。	○先生が作ったプロフィールの中で、安全かどうかを考えて、載せてはいけないと思うものには×をしましょう。またその理由も考えましょう。 ・自己紹介のところは×です。住んでいるところや電話番号は家に来てしまったり、電話が来てしまったりすると危ないからです。 ・写真は×です。悪い人に顔を知られてしまうと、連れ去られてしまうかもしれないからです。 ・よく遊ぶ友だちも顔が広まったら友だちの写真が勝手に使われてしまうかもしれないから×です。 ・よく遊ぶ公園は知られてしまうと待ちぶせされて危ないと思うので×です。 ・最初は顔の写真は載せても良いと思っていたけど、友だちの話を聞いて、顔を知られてしまうのは危ないと思ったので×にしました。	・ロイロノートでカードを配り載せてはいけないと思うものには黒で×印を付けるよう説明する。 ・意見が変わった場合は、赤で修正するように説明する。 ・カードを提出し、隣の友だちと話したり、全体で共有したりする。 ◇正解を求めることとせず、友だちの意見をよく聞き、受け止めることを大切にする。 ◇安全かどうかを考えて、自分はどうするかという視点を大切にする。	25	タブレット使用
おわり	5 インターネットで行動するときの3つのステップをもう一度確認する。 6 本時のふり返しをする。	○インターネットを使うときの3つの大切なことをもう一度確かめましょう。 ・友だちの話をよく聞いて、のせて いいかどうか、よく考えられた よ。	・インターネットで行動するときの3つのステップをもう一度確かめ、その大切さを感じたり本時のふり返しにつなげたりする。 ・ロイロノートのふり返しシートで回答させる。	10	タブレット使用

5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
自分がオンラインを使うときに、実践したいことを考える。また、普段の生活でも生かせそうなことを考える。	前時に考えたことを基に、普段自分が使うときに、これからどうしたいか目標を立てるようにする。 普段の生活の中で困った時を思い出し、生かせることはあるか考え全体で共有するようにする。	これから、インターネットを使うときに、インターネットで行動するときの3つのステップを思い出したり、自分なりに気をつけたいことを考えたりして目標を立て実践しようとしている。 【主体的態度】（ワークシート）

引用文献

・坂本旬ら, 2022. デジタル・シティズンシップ プラス やってみよう! 創ろう! 善きデジタル市民への学び, 大月書店

・資料: デジタルの足あとしてなんだろう?

http://www.sagamihara-kng.ed.jp/jouhou-han/sekyuritymoralhandbook/e3_gakkatu_dejitarunoasiatottenandarou.pdf

6 授業記録の概要

	教師	児童の反応	時間
導入	○アンケートやこの前勉強したことを思い出しましょう。 ○デジタル足あとしてなんだったけ。 ○インターネットで行動するときの3つのステップを確かめましょう。	・デジタル足あとはインターネットに載せたら、世界中の人に見られて、消すことができない。 ・オススメ動画が出てくる。 ・「立ち止まる」「安全かどうか考える」「大人に相談する」	10
展開	○先生が作ったプロフィールの中で、安全かどうかを考えて、載せてはいけないと思うものには×をしましょう。またその理由も考えましょう。	・電話番号は×です。へんな人にわかってしまうかもしれないからです。 ・電話番号はいたずら電話がきちゃうかもしれないから×です。 ・五加小学校って分かると来ちゃうかもしれないから×です。 ・顔の写真は×です。もしかしたら誘拐されるかもしれないからです。 ・載せていいかどうかわからないものがあって迷いました。	25
おわり	○インターネットを使うときの3つの大切なことをもう一度確かめましょう。	・まよっちゃうことが多かったから、相談しようと思いました。 ・安全かどうかよく考えられました。	10

7 反省

・1年生がクロームブックを使いこなし、「安全」かどうかについてよく考えていた。1年生にとって「安全」かどうかイメージしにくい面もあり、学年にあったデジタルシティズンシップ教育を考えていく必要がある。

・ただ危険であると教えるのではなく、自分で考えて判断することが、子どもたちにとっての納得解に繋がると考え進めてきたが、より子どもたちの実態に合った内容で、さらに実践をしていきたい。

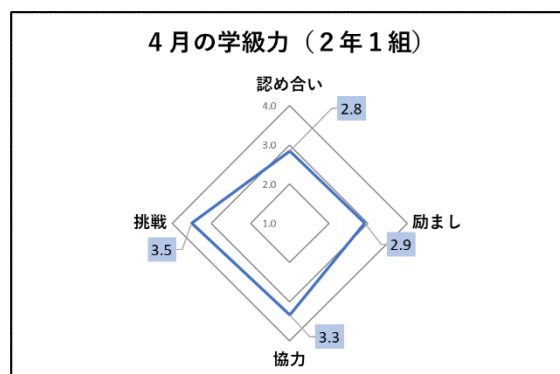
主題名「ふわふわことばの シャワーをかけるよ」

千曲市立上山田小学校 2 年

1. 主題設定の理由

本校では学校目標「気づき ねばり 思いやり」をもとに、重点目標として「どの子にも居場所がある温かなクラスづくり」を掲げ、学級経営を大切にしている。年間3回行われる Q-U をもとに「認め合い」「励まし」「協力」「挑戦」の4観点について昨年度から学級の実態を見える化し、学級経営に活かしている。

右のグラフは今年度4月、1回目に行われた Q-U の結果である。1年生の時からクラスでヤギを飼育していることから、「挑戦」「協力」の観点については子どもたちも高評価しているが、「認め合い」「励まし」については思いのほか満たされていないと感じている実態が分かった。1年生からクラスでは「ふわふわことばとちくちくことば」を扱い、言葉がけを意識してきた。ふり返るに「ちくちくことば」については私も子どもたちも言わないように声をかけることが多かったが、「ふわふわことば」について具体的にどんな言葉をかけたらよいのか、丁寧に扱う場面が少なかったように思う。



そんなことを思っていると、7月の「なかよし旬間」で「なかよしの木」の活動が行われた。これは、なかよしの木に友だちへのありがとうやがんばっている姿を「なかよしの実」カードに書き、木に貼っていくという活動である。これを旬間中に5回行ったところ、7月の Q-U では「認め合い」「励まし」の数値が上がった。このことから子どもたちにとって、先生に認めてもらうこともうれしいが、友だちから認めてもらうことが自信につながっているのではないかと考えた。

そこで、今年度はクラスの「スマイルアクション」に「なかよしの木」を取り入れ、2学期以降も折を見て「なかよしの実」カードに記入していこうと思った。そしてさらにこの活動が子どもたちにとって意味のあるものになり、自尊感情の高まりや個性の伸長が図られるよう、単元を構成してみようと考えた。

2. 単元展開

	時数	題材名	内容	備考
1	1 時間	「おり紙の名人」 道徳の教科書	・折り紙名人の吉澤さんの話を読み、自分の得意なことやよいことを見つける。 ・出された得意なこと・好きなことは短冊に書いて、常時廊下に掲示しておく。	道徳 「個性の伸長」 じぶんのよいところ
2	朝の会など	「なかよしの木」	・なかよし旬間中、友だちへのありがとうやがんばっていることを「なかよしの実」に書いて、交換し合う。（5回） ・毎回、違う友だちと交換する。	学級活動
3	1 時間	「どうしてうまくいかないのかな」 道徳の教科書	・何をやってもうまくいかない「私」に対して温かな言葉をかける家族。その姿から自分を好きになることの大切さを考	道徳 「個性の伸長」 じぶんをすき

			える。	になる
4	1 時間	「なかよしの実」	・ これまで5 回交換したカードを読み返し、友だちが自分のどんなところを認めてくれたかに気づく。 ・ 今まで交換したことがない友だちに声をかけ、カードを交換する。	学級活動 1 学期に書いた「なかよしの実」カードをまとめたもの
5	1 時間	「ふわふわことばのシャワーをかけるよ」	本時	道徳
6		「なかよしの実」	・ 「なかよしの木」に「なかよしの実」を飾っていく。	スマイルアクションとして
7	1 時間	「大きくなったぼくわたし」	・ 友だちからもらった「なかよしの実」カードを読み返し、2 年生になって自分ができるようになったことや、自分のよいところを見つけ、模造紙に等身大に描かれた「わたし」の周りにカードを飾っていく。	生活科

3. 本時の主眼

これまで6 回「なかよしの実」の交換を行ってきた子どもたちが、7 人目の友だちとカードを交換する場面で、最近の授業から友だちのがんばっている姿を想起させる活動を通して、友だちの良さは授業場面から見つけられることに気づき、意欲的に7 枚目のカードを記入することができる。

4. 指導上の留意点

- ・ 友だちの良さに気づかせるために、本時では授業について取り上げるが、必ず授業のことを書くわけではないことを子どもたちに伝える。
- ・ いろいろな面からその子を捉えられるように、カードに記入する前にこれまでの相手のカードを読ませ、できるだけ違うことを書くように声をかける。

5. 展開

展開	学習内容	予想される児童の反応	指導・支援・評価	備考・時間
導入	1. これまでのカードを読み返す	・ 友だちにほめてもらったみたいでうれしい。 ・ ぼくはドッジボールのことがたくさん書いてある。 ・ 今日は誰と交換しようかな。 ・ どんなことを書けばいいか、迷うな。	○まとめられた用紙を返却しながら、児童のつぶやきや表情をとらえる。 ○ペアを決める前に困っていることはないか尋ねる。	これまでのカードがまとめられた用紙 10分
授業中にながらんでいる友だちについて思い出してみよう				

展開	2. 授業のことで友だちのがんばっている姿を出し合う	・算数の九九検定で、〇〇くんが何度も練習して合格していた。 ・図工の「くしゃくしゃギュ」の作品がとてもかわいい。 ・体育のキックベースで、遠くまで飛ばしていてすごかった。 ・そうか、授業中のことを書いてもいいんだね。 ・書ける気がしてきた。早くペアを決めようよ。	○本時は自由に記述させるだけでなく、最近の授業場面にしばって考えさせる。 ○今まで通り、相手のよいところやありがとうも書いてよいことを伝える。	10分
	3. ペアを決めて、相手のよいところをカードに書く	・〇〇さんは、みんなからドッジボール上手だって褒められていることが多いね。 ・わたしは、この前の算数のことを書こう。	【評価】 友だちの良さは授業場面から見つけられることに気づいたか、表情やカードの内容から評価する。	15分
終末	4. カードを交換し合う	・いつもと違うことが書かれていて、うれしいな。 ・これなら、いろいろな友だちのことが書けそうぞ。	○カードを交換し、読み合ったら「なかよしの木」に飾らせる。	10分

6. 授業記録の概要

展開	教師のかかわり	児童の反応	時間
導入	1. これまでのカードを返すから、読み返してみよう。 自分はどんなことをたくさん褒めてもらっているかな？ 今日で7人目だよ。誰と交換するか楽しみだね。今までやったことない人と交換しようね。何か不安なこと、あるかな？ あんまり遊んだり話したりしたことない人とペアになるかもしれないね。じゃあ、今日はまず、授業中のがんばっている友だちのこと、思い出してみよう。	・今日は誰と交換しようかな。 ・〇〇くん、サッカーのことがいっぱい書いてあるね。 ・私は絵が上手だって。 ・ココちゃんとなかよしだねって書いてある。 ・ぼくはドッジボールのこと。 ・ない。早くやろうよ。 ・もう〇〇くんとやるって決めたんだ。 ・どんなことを書けばいいかわからない。	10

展開	2. 最近、どんな授業があったっけ？ 板書していく。 ・算数の九九けんてい 他にもがんばっていた人、いたよね。 ・図工のくしゃくしゃギユ そうか、廊下に飾ってあるからね。 あとで見に行ってもいいよ。 ・体育のキックベース それはすごい。ホームランだな。 ・生活のココランド 早く完成するといいね。竹を運ぶのも重かったなあ。 どう？書けそうかな？ 3. ペアを決めて、相手のよいところをカードに書く じゃあ、今までやったことがない人とペアになろうね。ペアになったら、相手のカードを見せてもらおう。 じゃあ、「なかよしの実」カードを配るよ。下の方が空いたら、絵を描いてもいいからね。 書くことに困っている児童がいないか、机間巡視する。内容を評価していく。	・算数の九九検定で、〇〇くんが何度も練習して合格していた。 ・〇〇さん、図工の「くしゃくしゃギユ」の作品がとってもかわいい。 ・えっ？廊下に見に行ってもいい？ ・体育のキックベースで、遠くまで飛ばしててすごかった。 ・そうそう。4点取ったんだよ。 ・ココランドを作るときに、穴を掘るのをがんばっていた。 ・入口を作るのをがんばってた。 ・書ける気がしてきた。早くペアを決めようよ。 ・〇〇さんは、みんなから絵が上手だって褒められていることが多いね。わたしは、この前の体育のことを書こう。 ・廊下に作品を見に行ってください。 ・なんか、いつもよりもたくさん書けたよ。	10 20
終末	4. カードを交換し合う それでは、交換してもいいかな？ 交換して、読み合ったら、黒板の「なかよしの木」に貼ってください。 	「〇〇ちゃんへ あつまりっこキックベースじょうずだね。生活のココランドのとき、ココちゃんの近くにいられてスゴイね。〇〇より」 「〇〇くんへ 家へ来てくれてありがとう。サッカーやドッジボールがうまいね。竹を切るのがうまいね。あそびにさそってくれてやさしいね。〇〇より」 「〇〇ちゃんは、くしゃくしゃギユがじょうずだね。あとキックベースがじょうずだね。ギンナンをあらうのもじょうずだね。あと九九も言えるようになったね。じゅぎょう中ががんばっているね。〇〇より」	5

7. 反省

- ・「なかよしの実」カードには、相手のよさを自由に書かせてきたが、7人目ともなるとそろそろどんなことを書けばよいか迷い出すだろうと思い、一つの観点として「授業中のがんばる姿」を思い起こさせた。全員がそれについて書いたわけではないが、いつもよりも書き出しがスムーズだったことや、記述の内容也多岐にわたっていたことなどから、観点を与えることが有効であると感じられた。
- ・今後は、子どもたちが見つけた内容を例として、「給食のこと」「そうじのこと」「係活動のこと」「行事のこと」などの観点を示してみたい。



主題名「人の心に寄り添う」(全校人権集会)

1. 主題設定の理由

屋代中学校では、すべての教育活動を通して人権学習を推進してきているが、さらに、後期人権教育強調月間を設定し、人権について集中的に学習する機会を設けている。この取り組みのまとめとして、福祉人権委員会（生徒会）が人権集会を企画し、日頃の自分の生活を振り返り、人権意識を高めるため、本主題を設定した。

また、この人権集会を通して、先輩たちがつくり上げ、大切に引き継がれている「屋中人権宣言」を再確認する機会としたい。

2. 主 眼

様々な会話の場面を提示し、発言者や聞き手の気持ちを考えるゲームを通して、同じ台詞（言葉）でも、言い方や態度によって発言者の意図や聞き手の受け取り方が異なることを認識し、これからの自分の言動を考え、意識することができる。

3. 指導上の留意点

- ・楽しく明るい雰囲気大切にしながら、真剣に日頃の自分の行動を考える雰囲気をつくる。
- ・ゲームでは、正解を提示するが、正解・不正解にこだわらず、一人ひとりの感じ方を尊重しながら集会を進行する。
- ・進行役の生徒には、事前のリハーサル等を十分に行い、自信をもってスムーズに進行できるように、支援しておく。

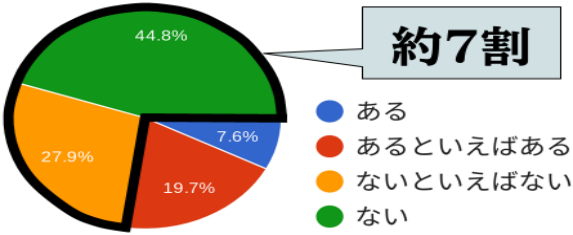
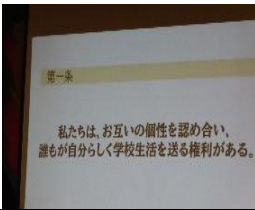
4. 展 開

	活 動	予想される生徒の反応	時 間	備 考
導 入	1. 第1回人権集会（5月実施）を振り返る。 2. 第2回（今日）の人権集会のテーマを確認する。	・5月の人権集会では、いじめについて考えたな。 ・「からかい」や「いじり」も、悲しい思いになる。 ・今度の人権集会では、どんなテーマで考え合うのかな。	2	・マイク ・プロジェクター ・スクリーン
展 開	3. 「はあって言うゲーム」のルールを説明する。 4. 第1問から第5問まで順に出題し、答えを確認し合う。 「いや～」、「そんな」、「うそ」、「ふふふふ～ん」、	・どんなゲームだろう。面白そうぞ。 ・そういえば、日常生活でも「はあ」という場面があるなあ。 ・ルールは、簡単だ。 ・これは、どんな場面だろう。 ・よ～し、正解するぞ。	9	

	「ああ」 5. ゲームのまとめをする。 6. 友だち関係に関するグラフを提示する。	・ 相手がどんな気持ちで言っているか、難しいな。 ・ よく考えて行動することが大切だ。 ・ 学校生活は、みんな楽しそうだ。 ・ 友だち関係の悩みは、みんな一緒だな。	4	
終末	7. 人権集会のまとめとして、「屋中人権宣言」を声に出して読み合っ全校で確認する。	・ 内容をよく理解して、大切にしていきたい。 ・ 普段は、忘れていることもあるけど、安心して生活していくためにいつも意識していきたい。	5	

5. 授業記録の概要

	福祉人権委員会 (進行)	生徒の反応	時間
導入	・ 整列確認 ・ はじめの言葉 ・ 5月の人権集会の確認  ・ 今日のテーマを提示する 今回のテーマ 『人の心に寄り添う』 	・ 人権集会が始まるぞ。 ・ 前の人権集会は、いじめについてだったな。  前回… テーマ『いじりといじめの違い』 からかわれている人やいじめられている人が 悲しい思いや辛い思い ⇒ すべていじめ ・ 身近なテーマだなあ。 ・ 友だち関係は、重要だ。 ・ 集会はどんな内容か、楽しみだ。 ・ 相手の気持ちを考えることは、大切だぞ。	2
展	・ ゲームの内容とルールを説明する。 『はあって言うゲーム』	・ どんなゲームをやるんだろう。 〈ルール説明〉 ①カードの項目を確認 ②カードのどの項目か考える ③正解を目指そう！	

開	・ 第 1 問を出題する。  そんな A 値段が高くて「そんな」 B 裏切られて「そんな」 C 信じられなくて「そんな」 D 照れて「そんな」 E 自動ドアにはさまれて「そんな」 F 追いつめられて「そんな」 G 落ちこんで「そんな」 H おどろいて「そんな」 ・ 第 2 問を出題する。  いやー A ほめられたときの「いやー」 B 考え事をしながら「いやー」 C お断りを断る「いやー」 D おぼけを見て「いやー」 E ごまかす「いやー」 F マジでムリ！の「いやー」 G 待てよ？の「いやー」 H ハッピーニュー「イヤー」 ＊ 以下同様。 ・ ゲームのまとめをする。 相手がどんな感情で言っているのか よく考えて答えを出す ↓ この意識を日々の生活でも 行ってほしい ・ 学校生活アンケート結果を提示する。 人間関係で困ったり、悩んだりすることはありますか 	・ ルールは、よくわかったぞ。 ・ 楽しい集会になりそうだ。おもしろそうだ ・ 自分は、できるだろうか。 正解は・・・ C 信じられなくて「そんな」 ・ 難しかったな。当たったぞ。 ・ 次は正解したい。 正解は・・・ A ほめられたときの「いやー」  仲のいい、親しい相手にこそ 個人を尊重しあい、 お互いの気持ちを考える ことが大切 ・ 学校生活には多くの人が満足しているけれど、友だち関係では、悩みもあるなあ。 ・ 悩みがあるのは、自分だけではないぞ。	9 4
終 末	・ 「屋代中人権宣言」を全校で読んで確認する。 ・ 終わりの言葉 ・ 退場	 ・ 大事なことが書かれているなあ。 ・ いつも大切にしていきたい。	5

6. 反 省

- ・ 人権教育強調月間のまとめとして、日頃の自分の言動を振り返るよい機会となった。事前のアンケートでも、生徒にとって友だちとの接し方は特に身近な人権課題であり、このことについて全校で考え合うことができた。
- ・ 人権学習の時間だけではなく、日々の生活を振り返ることを通して、絶えず人権尊重の視点で支援していくことが大切である。
- ・ 部落差別の現状や到達点をふまえて、SDGs の課題にも即して学習を深められるよう、意識的に新しい教材開発に力を入れていきたい。

7. 資 料

人権集会で使用したスライド（一部）

うそ

- A 突然のプレゼントに「うそ」
- B 財布をなくして「うそ」
- C 相手をバカにした「うそ」
- D 恋人にいじわるして「うそ」
- E 衝撃の事実を知って「うそ」
- F 完全に疑っているときの「うそ」
- G ドッキリのネタばらしの「うそ」
- H JKがあいづちに使う「うそ」

ふんふん

- A ぼーっと鼻歌
- B ご機嫌で鼻歌
- C たいくつで鼻歌
- D ノリノリで鼻歌
- E さびしくて鼻歌
- F 感情こめて鼻歌
- G 子どもの鼻歌
- H マヌケな鼻歌



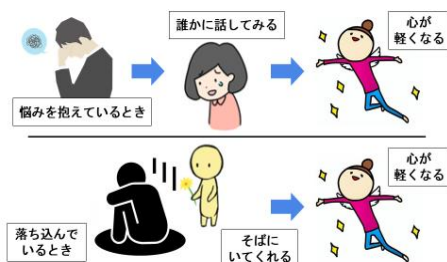
ああ

- A 納得の「ああ」
- B おいしいの「ああ」
- C あくびの「ああ」
- D 生返事の「ああ」
- E 苦しんで「ああ」
- F 電車をのがして「ああ」
- G 失敗したときの「ああ」
- H 英語で「Ah（アア）」

相手が不快な思いをせず、
いじめに繋がらないように
するためには？

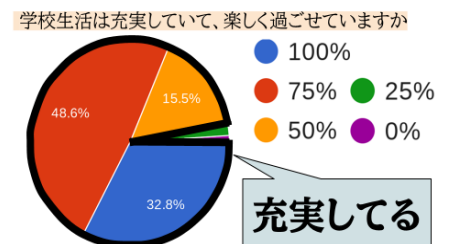
些細な言葉のニュアンスの違い
↓
周りの些細な変化に
気づくことに関連

仲のいい、親しい相手にこそ
個人を尊重しあい、
お互いの気持ちを考える
ことが大切



① 普段の生活で、相手がどんな気持ちで言ったのかを考える

② 周囲に目を向け、些細な変化に気づけるようになる
そして悩んでいる人がいたら、心から寄り添う



前文

私たち屋中生は、生徒全員が安心して過ごせる
屋中を創り上げていくことを目指し、
次のことについて確認し、
一人ひとりが、意識して行動する。

人権教育実践報告 ～部落差別を知る～

千曲市立埴生中学校

1 部落差別問題の学習における全体テーマ

被差別部落の人々の差別に立ち向かう強い意志とその行動力から学ぶ

2 テーマの教材化

【学校目標 教育目標 重点目標】

「自主自律」

「心豊かにたくましく生きる生徒の育成」

- ・ 確かな学力と豊かな感性をはぐくむ学校
- ・ 他者を認め自己を律しともに高めあう学校
- ・ 地域とともに歩む開かれた学校



深く学び、精一杯活動！

【人権教育から見た生徒の様子】

- 気持ちよいあいさつを交わし合える姿
- 心をひとつにして行事や生徒会活動に取り組む姿
- 困っている友達に声をかけたり相談に乗ったりする姿
- △自分自身の中にある「差別する心」に気がつかない姿
- △陰で友達の悪口を言い合ったり、人をばかにするような言動を安易にとりしまったりする姿
- △差別的な言動をとる仲間に対して行動をおこせない姿

【目指す学校づくり】

全ての生徒にとって

ウェルビーングな埴生中

【人権教育の基本目標】

あらゆる場面で基本的人権を尊重し、差別を見抜き、差別を許さず、共に生きていく仲間作りに取り組んでいく生徒の育成

【部落差別問題から学べる価値】

- 被差別部落の人々がもっていた優れた技能
- 部落差別の不当性、理不尽さ
- くじけることなく差別と闘ってきた被差別部落の人々のたくましさ
- 法律を制定するに至った部落差別問題の重大性
- 結婚や就職といった誰もが関わる事柄の中に未だに残る部落差別に対する強い憤り

【教材と指導の方向】

【江戸時代の身分制度・1学年】

- 今も部落差別が存在し、その起こりが江戸時代までさかのぼることに気づかせる。
- 被差別部落の人々の生活をビデオ教材（誇りうる部落の歴史）や資料で学習しながら、その人々は優れた技能を持ち、地域社会に貢献していたことを理解させる。
- 当時の人びとはどのような差別をしたのかを調べながら、「あやまった知識や偏見、そして法令によって二重に差別し、誤った知識や偏見がその後の部落差別のもとになっている」ということに気づかせる。

【水平社宣言・差別との闘い・2学年】

- 水平社運動の広がりを資料で学習しながら、差別を解消していくためには、単なる同情に頼るのではなく、仲間と協力し、自ら立ち上がっていくことが必要であることを理解させる。
- 厳しい差別にあいながらも自らの道を歩んだ人物のビデオ教材（大江礒吉に学ぶ）を学習する中から、差別と闘い、自分の理想を貫いた被差別部落の人々の強い意志に気づかせる。

【戦後の解放運動と部落差別解消に向けて・3学年】

- 戦後になってもなお存在する部落差別の現実を知るとともに、部落差別解消に向けた粘り強い活動が法律の制定につながり、それによって被差別部落やその周辺の環境が大きく改善されたことを理解させる。
- 結婚差別の問題をビデオ教材（ドキュメンタリー結婚）で学習しながら、部落差別は今なお現存し自分にかかわる重大な問題であることを理解させる。それとともに、その差別の解消に向けて行動していこうとする意欲を高めさせる。（「部落差別の解消の推進に関する法律」とあわせて）

【目指す生徒の姿】

- 自分自身や友達が日常している行為の中から差別的な言動を見抜くことができる生徒
- 差別が人の心に及ぼす影響の重大性を理解できる生徒
- 部落差別をはじめとした身の回りの差別をなくしていこうとする意欲と実行力を持つことができる生徒

3 単元展開 (1 学年)

	学習内容	指導で大切にしたいこと	備考
第1時	○同和問題とは何かを知る ・「同和問題」に対する共通認識に立つところから、被差別部落について知り、理解を深めていく。	・小学校での学習を振り返り、人権について考え、部落差別を知るきっかけとなる。資料を扱いながら、後期の人権教育で学習する「同和問題」に対する共通認識に立たせたい。	学習カード
第2時	○あけぼの等資料の通読 あけぼの P83, P106～107, P76～77 資料「排」「ケガレとキヨメ」「皮田村の成立」「伝統の白なめし革」	・被差別部落のおこりは「ケガレ」の意識から生まれたと考えられていること、人は「自分ではないもの」「ふしぎなもの」を畏れる傾向があることをおさえる。 ・「あけぼの」発刊に携わった中山英一さんについても扱う。	学習カード
第3時	○「江戸時代の暮らし② 誇りうる部落の歴史」 ・江戸時代の被差別部落の人々の役割の重要性や社会に貢献した姿を知る。	・江戸時代、被差別部落の人々は、警備や皮革業など、優れた技術や知識を持っていたため、身分の枠を超えてさまざまな人々と交流があったこと、社会の経済発展にも関わっていたことをおさえる。 ・人権の学習で扱う用語の重みについて考えを深めるよう促す。	DVD「誇りうる部落の歴史」 あけぼの p.94～p101.
第4時	○「江戸時代の暮らし 江戸時代の身分制度と差別された人々」 ・江戸時代の法令ができた理由を話し合い、法令が出されても差別を乗り越えて行動する人々がいたことに気づく。	・江戸時代は、「村や町の人々の偏見による差別」に加え、「法令にもとづいた差別」の二重の差別があったことを確認する。 ・差別された人々が伊勢参りを行ったことが発覚した事件とその判決や、当時の人々の暮らしについての資料から考えられることを話し合わせたり、発表したりさせる。	DVD「江戸時代の身分制度と差別された人々」 あけぼの p.86～p.93, p.102～p.10
第5時	○「差別をなくすために」 ・人権同和教育を学んでのまとめ、標語を書く。	・今までの自分を見つめながら、今後の生き方を学習カードへ記入し、標語を作成する ・自分自身の中にある差別意識に気づき、それを改めようとする気持ちを持たせる。	学習カード

4 学年目標 (1 学年)

- ① 学級に目を向け、友の良さを認めながら自分自身の良さにも気づいていくことができる。
- ② 様々なワークショップを通じ、友達の考えを聞き、自分の考えを相手の気持ちを思いながらきちんと話す技能を身につけ、学級や学年内の人間関係をよりよいものにしていこうとする態度を培う。
- ③ 身のまわりにあるさまざまな差別や偏見に気づき、それを自分の問題として考え差別を許さない心情を育てる。
- ④ 部落差別に関わる歴史的な背景（江戸時代まで）を学習し、その存在を確認する。

1 主題名 「同和問題ってなんですか？」

2 主眼 小学校での学習や前期人権学習で人権問題について学習してきた生徒たちが、初めて同和問題について学習するにあたり、「同和問題」に対する共通認識に立つところから、被差別部落について知り、そのことについての理解を深めていく。

3 指導上の留意点

- ・部落問題で疑問に感じたことや個々での考えを大切にし、そのことを共有する場面では多くの意見を取り上げていく。

5 展開

段階	学習活動	指導・評価	時間	資料
導入	1 小学校での人権教育で覚えていることや言葉などを発表させる。	1 周囲と相談してよいので、自由に出させる。 ・いろいろと出ると思われるので、板書は同和問題とそれ以外のものに分けて板書する。 ・後期の人権教育で学習する内容は「同和問題」のことであることを確認する。 *人権教育は、お互いを尊重し合えるように望ましい言葉遣いができることも大切であるので、差別用語については、人権教育の授業で扱うことは許されるが、それ以外の場面では「誤解を招いたり、いやな想いをしたり、傷ついたりする人も出てくるので、使用しないことを確認する。	5	
	2 資料「ひとすじの涙」を読む。 3 ①から③の観点で考える。(右の) 4 若いお母さんが生まれたばかりの我が子に、どんなことを話したのか考える。	「同和問題」って何だろう？ 2 教師が朗読し、話の内容が全員にわかるようにする。 3 ①輸血を申し出た青年たちはどんな気持ちをもっていたのだろう。 ②輸血を断った病院の人やおばあさんはどんな気持ちをもっていたのだろう。 ・被差別部落の人は自分たちとは違うと思っているから、そんな人から血をもらうわけにはいかない。 *青年たちが住所と名前を書いたことが、断るきっかけとなっていることをおさえておく ③お母さんが流した涙には、どんな気持ちが込められていたのだろう。 ・差別する心をもっている自分に対する悲しさ。 ・青年に対してすまない気持ち ・部落差別をする人や社会へのいかり 4 観点③と絡めながら考えさせる。 青年たちに対する差別に対して反対することばになっているか *同和問題とは、ある地域で生まれたというだけで自分たちとは違うと思われ、差別されたり、悲しい思いをしたりするという人たちがいるという人権問題であることをおさえる。 *人権教育がなかった昔、その犠牲者でもあるおばあさんの姿から、人権教育の大切さをおさえる。 *後期は同和問題について学習していくことを確認する。	30	資料「ひとすじの涙」 学習カード
	5 人権教育月間の学習を通して、これから自分はどうしていくか考える。	5 数名に発表してもらう。 同和問題について少しでも理解できたか、また差別に対しての憤りやいかりが持てたか。	15	学習カード

⑥ 生徒の感想＜成果と課題＞ ①～③の観点で考える

①輸血を申し出た青年たちはどんな気持ちをもっていたのだろう。

- ・命はどんなものにも代えられないと思い、助けたいという気持ち。
- ・少しでも早く輸血を行い、お母さんと赤ちゃんの命を救いたい。
- ・人の役に立ちたい、助けたい。
- ・生まれた幸せを、悲しい気持ちにしたくない。

②輸血を断った病院の人やおばあさんはどんな気持ちをもっていたのだろう。

- ・被差別部落の人たちの血液を、お母さんと赤ちゃんのために使いたくない。
- ・被差別部落の人たちの血液を輸血することで、若いお母さんと赤ちゃんも差別を受けてしまうかもしれないと心配になった。
- ・お母さんや赤ちゃんのことを思って、輸血を断った。
- ・「被差別部落」の意味が分からない。どんな人なのだろう。

③お母さんが流した涙には、どんな気持ちが込められていたのだろう。また、我が子にどんなことを話したのだろう。

- ・「差別しない子に育てね。」
- ・「私たちのために何度も輸血をしに来てくれた人たちがいるんだよ。」
- ・「差別があるこの世の中を、あなたは変えていってね。」
- ・「あなたは差別をしない子に育てね。」

＜全体の感想＞

- ・この話を知って、部落差別というものを初めて知った。そして、今も被差別部落で差別されていることを知ってびっくりした。
- ・昔から、黒人と白人のような差別は日本でも行われていたということを知った。
- ・何も悪いことをしていない人を、意味もなく差別をしてはいけない。誰もが平等に生きるにはどうしたらいいのか考えていきたい。
- ・日本では差別はあまりないと思っていたけれど、江戸時代のなごりみたいなものが残っていて、とても驚きました。
- ・被差別部落ということを初めて知った。そんな昔から続いているのだったら、もうやめたほうが良い。2人の青年には人権がないように感じてしまった。人権はひとりひとりに必ずあるものだとすることを改めて感じた。
- ・私たちの知らない時代に、人間扱いされなかった人がいて、今も少しなごりがあることを知った。

⑦ 反省等

- ・輸血にきてくれた青年を断ったことに疑問を感じ、「被差別部落」「部落差別」という言葉を知らない、聞いたことがない生徒たちにとって、部落差別を知るきっかけとなった。
- ・差別があったことは知ることができたが、「どんな差別なんだろう。」と疑問を感じている生徒も多いため、「あけぼの」の資料等を活かしながら、学習を深めていきたい。

令和5年度人権教育の実践（2学年）― 後期人権強調月間の学習から ―

1 人権学習2学年のねらい

- 後期人権学習の目標：「差別を許さない私になる」 ～ 同和問題（部落差別）を通して ～
 ○前期人権学習の目標：「差別をしない私になる」 ～ ハンセン病に関わる差別を通して ～
 正しい判断ができる ために 正しく理解する

2 差別に対する基本的な考え方・立場

◇差別はつくられる。
 ◇差別する側が変わらないと差別はなくなる。
 ◇無関心は差別を助長する。差別をすることと同じ。

⇒ 自分たちでつくった差別であれば、
 自分たちでなくせるはずだ。

3 授業の実践（第5時／全6時間中）

活動	内容・発問「 」など	時間
① 本時のテーマを確認する。	○部落差別の視点から就職に関わる問題について考えよう。 ・就職試験等で提出する履歴書の内容から差別や偏見について考えることを伝える。	5
② 就職試験で、会社の人に伝えたいことや会社の人自分が自分について知りたいであろうと思うことを考える。	○「就職試験の際に提出する履歴書で、あなたは会社の人にどのようなことを伝えたいか。また、会社の方は、あなたについてどのようなことを知りたいと思うだろうか。」 ・就職する立場と採用する会社側の立場の両方で考えるように指示する。	7
③ 就職面接で出された質問について、自分ならどう感じるか考える。	○10項目の質問について、抵抗なく答えられるか、答えにくい（違和感がある）と感じる質問があるかを問う。 ・それぞれの問いについて、抵抗ない、または抵抗あると感じた理由も考えさせる。	12
④ 2種類の履歴書を比較し、感じたことや考えたことを友と伝え合う。	○「2種類の履歴書の記入項目を比較して、気づいたこと・感じたことや考えたことを書いてみよう。」 ・②や③の活動で書いたり考えたりしたことを踏まえて、記入項目に着目するように伝える。 ○友と感じたことや考えたことを伝え合う。 ・履歴書から感じられたことだけでなく、互いの感じ方（捉え方・受け取り方）の違い等にも着目するよう伝える。	17
⑤ 本時の振り返りをする。	○「本時の学習の中で気づいたことや考えたことを書こう。」 ・「これ、おかしいよね」と気づけることや声を上げることの大切さを確認する。	9

4 生徒の学び ― 学習カードの記述・全体の感想等から ―

③の学習活動〈面接の質問事項について〉から

- ・「住所の略図を書く」、「自分専用の部屋の有無」、「親の職種」、「購読している新聞の種類」などで、面接時の質問にふさわしくないと感じた生徒が多かった。
- ・自身のこと以外の質問は、その返答によって合否が変わると思えないので必要がない、と考えた生徒が多かった。

④の学習活動〈統一応募用紙とそれ以前の履歴書の比較〉から

- ・「自分の周りの人たちのことを尋ねられているが、入社したいのは自分なのになぜ周りの人の情報が必要なのだろうか」、「周りの人たちから自分の情報を得ようとしているのか」、「周囲の人からどのようなことを聞くつもりなのだろうか」、「家族構成はともかく、なぜ亡くなった家族の氏名まで書く必要があるのかわからない」と、疑問や不信感をもった生徒が多数いた。

生徒たちは、②の学習活動〈就職に関わって「会社の人に伝えたいこと」・「会社の人を知りたいと思うこと」〉で考えた内容と、③・④の学習活動で扱った項目との内容の差に驚いていた。会社は自分以外の人のことまで知りたがっていて、身近調査のようだと感じた生徒もいた。それらと部落差別を結びつけて考えるところまではなかなか難しかったが、試験の際に不利益になるような事柄であることを感じ取っていた。また、「今までに声を上げてきた人がいるから、統一応募用紙のような形式ができあがった。おかしいと感じたことを、声に出して伝えていくことが大事だと感じた」といった感想が見られた。

5 教材の意図

部落差別や被差別部落について歴史を通して学んできた生徒たちに、部落差別は歴史の中だけのことではないのだということを伝えたいと考えた。そこで、中世から近代まで被差別部落の人びとの生活や解放運動への取り組みなどを学んだ後に本時を設定し、現代に続く部落差別に目を向けさせたいと考えた。

6 今後の学習に向けて

「今までに声を上げてきた人がいるから、統一応募用紙のような形式ができあがった。おかしいと感じたことを、声に出して伝えていくことが大事だと感じた」といった感想も見られた。このような意識を高めていけるように今後の学習を仕組んでいきたい。

また、生徒たちが中学校卒業後に差別に直面したときに、差別に負けずに生きていけるようにするためには、どのような力を育てていけばよいか、どのような学習を仕組んでいけばよいかを検討していく。

7 資料

「あけぼの」 p 74, 75 『17 就職するとき、あなたは…?』より

中学1学年 道徳科学習指導案（人権教育）

千曲市立戸倉上山田中学校1年

- 1 主題名「部落差別とのたたかい」A（4）希望と勇気、努力と強い意志
- 2 教材名「渋染一揆」
- 3 主題設定の理由

道徳的価値	一人の人間としてよりよく生きていくためには、正しいと思うことには勇気をもって行動することが大切である。そのためには、時には困難に立ち向かい、乗り越えようと努力することが重要である。
生徒の実態	間違っていると思うことがあっても、友だちの言動であると、それを言葉にすることを躊躇してしまう場面がある一方、そういう行動をとれた仲間をすごい、自分もできるようになりたいと思う姿もある。
教材の活用	差別された人々が嘆願書を作成し、それを提出する場面を中心にし、不当な差別に対し、人々が最も言いたかったことを考えることを通して、正しいと思うことには勇気をもって行動することの大切さを考える。

4 人権教育とのかかわり

- 一揆に立ち上がった人々の行動が、近代につながる人間の尊厳を求める運動の先駆的なものであることを理解する。（知識的側面）
- 百姓と同等の権利を求めて行動しようとした姿、生き方に共感しようとする。（価値・態度的側面）
- 被差別部落の人々の心情を共感的に受容し感じ取ることができる。（技能的側面）

5 ねらい

差別が当たり前の社会において、人々がその不当性を訴え、一揆にいたるまでの思いを考えることを通して、ねばり強く誇りをもって生きる人々に気づき、正しいと思うことには困難があっても努力して立ち向かおうとする心情を育てる。

6 指導上の留意点

- ・「別段御触書」「嘆願書」「強訴」「一揆」などの言葉はその都度、補足説明をしていく。

7 展開

◇人権教育にかかわる配慮点

段階	学習活動	○発問・予想される生徒の反応	教師の指導評価の視点	時	備考
導入	1 前時の学習を思い出す。	○自分が正しいと思ったことに、すぐに行動に移せるだろうか。	・「草つき穴」に出てきた幸太と義公は「子どもや子孫のために」運動をしていったことを思い出させる。	3	
	2 岡山藩で出された儉約令と別段御触書について考える。	・渋染めってどんな色？ ・茶色と紺しか着てはいけないの？ ○別段御触書が出された目的や意味はなんだろうか。 ・差をつけるってひどい。 ・重い年貢のかわりにがまんさせる	◇資料1を読み、百姓たちとは違い、被差別部落の人々が一目で区別できる不合理な内容であることをとらえさせる。 ・最大の目的が、百姓身分と	15	資料1

		ため。 ・不合理な身分差別を強めるため。	被差別身分の分裂支配ではなく、崩れかけている身分秩序を維持することであったことに気づかせたい。		
		別段御触書に対して、人々はどのように思い、どんな行動をしていったらう。			
展 開	2 被差別部落の人々の「別段御触書」撤回を求める取り組みについて知る。	○別段御触書を取り消してほしい、という嘆願書を作ってみて、被差別部落の人々が作ったものと比較してみよう。 ・間違っていることを整理して書くのは難しいな。 ・けんか腰にならない文は難しい。 ・相手のことも踏まえて書けているな。 ○人々が最も言いたかったことは何だろう。 ・年貢を納めている一人として、差別される理由なんかない。 ・差別されると働く気持ちがなくなってしまうから、取り消してほしい。	・抜粋ではあるが、嘆願書が正当な主張であることから、またわずかな期間で書かれたことから、被差別部落の人々が高い学力をもっていたことも気づかせたい。(補足してほしい) ◇自分たちは分け隔てられるいわれはない、という強い思いに気づかせたい。	22	資料 2
終 末	3 今日の授業を振り返って感想を書く。	○今日の授業を振り返って、わかったことや思ったこと、学んだことを書こう。	ねばり強く誇りをもって生きようとする人々の姿に共感して、感想を書いている。	10	

中学2学年 道徳科学習指導案（人権教育）

千曲市立戸倉上山田中学校2年

- 1 主題名「私の水平宣言」C（11）公正、公平、社会正義
- 2 教材名「その時歴史は動いた 人間は尊敬すべきものだ～全国水平社・差別との闘い～」
- 3 主題設定の課題

道徳的 価値	みんなで気持ちよく生活していくためには、誰に対しても公平に接することが大切である。自己中心的な考え方や偏った見方による不公平な態度や多数の意見に同調したり傍観したりするだけで制止することのできない態度は差別が起きても消極的になる。差別を積極的になくそうとする姿勢が必要である。
生徒の 態度	友人や先輩などの人間関係の中で、いつも一緒にいることや関わりづらさを感じるなどから、公正、公平な態度をとることができない場面が見られる。
教材の 活用	私の水平宣言を考える場面を追求の中心場面とし、自分たちの公正、公平な活動を話し合うことで、これからの生活に対してみんなで気持ちよく生活していくためにはどのようにするといいいのかを考えることで、これからの自分自身の目標を立て、公正、公平の具現化することを考える。

4 人権教育とのかかわり

- 水平宣言の概要について理解する。（知識的側面）
- 自分の発言や行動を振り返り、公正や公平に接しているか見直そうとしている。（価値的・態度的側面）
- 動画に出てくる女性の気持ちを想像し、共感的に受け止めることができる。（技能的側面）

5 ねらい

誰に対しても公正、公平に接することの意義を理解し、差別のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。

6 人権教育の視点

- ・ 生活ノートやクラスの水平アンケートから差別に対してどのように立ち向かっていけばいいのか考えることができるようにする。

7 指導上の留意点

アンケート結果については、誰か特定の人に焦点があたらないように配慮する。クラスの水平でない状態にばかり注目することなく、あくまでも自分自身に返す材料として扱う。

8 展開

◇人権教育にかかわる配慮点

段階	学習活動	○発問 ・ 予想される生徒の反応	教師の指導 評価の視点	時間
導入	① 前時までの学習についてふりかえる	○差別がなくならなかったのはなぜ？ ・ かわいそう、気の毒だから同情してやるという態度があったから ・ 部落民を見下している感情 ・ 差別に対しての間違った知識、考え方 ・ 誰の心にもある弱い心	・ 前時の学習を簡単に振り返る。	5
	普段の生活のなかで自分の態度や姿勢は、水平なのだろうか。			
展開	② 2 種類のアンケート結果を配布	○前回のアンケート結果をみて書かれた内容について、自分の身近なところにも、良いと思う部分と課題となる部分を確認しよう ・ 授業によって態度が変わるとか、人の話を聞かないのは確かに水平ではない。	・ 前回のアンケート結果を配付し、書かれた内容について、それぞれで確認し、自分の身近なところにも、良いと思います部分と課題となる部分があることを知る。	5

	③自分自身を振り返る	・ 水平な状態の方が居心地は良い。 ○これまでの学習、自分の身近な場面での2つのアンケート結果から、自分自身を見つめてみよう。 ・ 自分も新聞記者と同じことをしていた。 ・ 無意識にやっちゃっていることが自分にもある ・ 自分にも弱い心がある	◇どの意見も受容的に受け止める。 ・ 自分の普段の姿をアンケートと照らし合わせ、いつもの行動が公正・公平性があるのか考えさせる。 ◇差別とは、「差別を受けた人」も「差別をした人」も両方を傷つけるものであることを伝える	10
	④映像 (35'36～最後まで)	○被差別部落に生きた一人の女性の生涯を見てみましょう「命の重み」の著者(広島県の女性)	◇自分の体験を文章にすることで、差別をすることで自分をどんなにおとしめるかを世間の人に知ってもらいたいと考えたことを示す。	10
	⑤今までの学習から、これから自分がどう人権と向き合うのか「わたしの水平宣言」にまとめる。	○水平宣言やアンケート結果をもとに、「私の水平宣言」を書いてみよう。 ・ 困っている友だちと一緒に考えてできることを行動に移したいな。 ・ 無意識にある差別する心を意識して、これからの行動を考えていきたい。	・ 例を挙げながら、書き方を説明する。 ・ 「私が(は) …します。」の言い切りの文にする。 ・ 文章でも箇条書きでも良い。 ・ 理由も自分の言葉で書けると良い。	10
終 末	⑥私の水平宣言を発表し合う	○私の水平宣言を発表しましょう。 ・ 私も〇〇さんのように、活動していければいいな。	・ 班の代表者は教師の指名にする ◇それぞれの「私の水平宣言」を尊重して聞く態度を認めていく。	10

【評価に関して】

- ・ 公正、公平について、知識的側面だけでなく、様々な見方でとらえ考えているか。
- ・ 公正、公平に接することについて、アンケートに寄せられた意見と自分の活動を振り返り、これからの自分の活動を見直している。

中学3学年 道徳科学習指導案（人権教育）

千曲市立戸倉上山田中学校3年

- 1 主題名 「社会に生きる一人として」C 公正、公平、社会主義
- 2 教材名 「話してくれてありがとう」（宮崎県人権・同和教育研究協議会編『いきる（高校用）』一部改作）
- 3 主題設定の理由

道徳的価値	人は生まれながらにして、誰もが自由・平等に幸福を追求する権利をもっている。しかし、現実には差別や偏見が存在し、さまざまな人権侵害が起こっている。よりよい社会を実現するためには、自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢と、力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうとする姿勢が求められる。
生徒の実態	コロナ禍で様々な活動に制限がある中での経験不足があり、自分事として考える力や想像力が低い傾向はある。何事にも素直に明るく前向きに友と関わりながら活動したり追及したりする力はあるが、個になって判断し行動する力がまだ不足している。協動的に学びを通して得たものを自分に返ししながら、社会に生きる一人として自分に何が必要かを考え、個として判断し実践できる素地を身につけたい。
教材の活用	自身の生い立ちや家族の結婚差別の状況について、身を削るような勇気をもって記述した著書を通して、心情理解を深めることで、部落差別の問題を他人事としての捉えでとどまることなく、結婚差別の不合理性について、知的理解と人権感覚の両方の視点から生徒の考えを深めていきたい。

4 人権教育とのかかわり

- 現代にも根強く存在する部落差別問題の現状について知り、差別の厳しさについて理解する。（知識的側面）
- 特定の人々が「分け隔てられる」ことの不当性を感知し、それを許せないとするような人権感覚を高める。（価値的・態度的側面）
- 他者の痛みや感情を共感的に受容し感じ取ることができる。（技能的側面）

5 ねらい

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接することの意義を理解し、公正公平を重んじるよりよい社会の実現に向かうための道徳的判断力を育む。

6 人権教育の視点

- ・ 結婚差別について、同和地区（部落）出身というだけで、結婚を反対される不合理さを理解し、結婚を反対される不合理さを理解することができる。
- ・ 「打ち明け」に対して、どう「受け止める」ことがよいかについて、考えを深める中で、差別のない社会を作るために考え行動しようとする意欲や態度を身につける。

7 指導上の留意点

- ・ 1年次から学習をしてきた「同和問題（部落差別）」について、必要に応じて歴史的経緯にふれる。
- ・ 差別をなくそうとする立場に立って考え、自分に何ができるのかを追及することが重要である。「差別がなくなしてほしい」など、人任せのような立場ではなく、当事者の視点で考えさせるよう留意する。
- ・ 自分の考えをもてるように、ロイロノートのカードを活用し記述させる。
- ・ 個の考えを出し合う場面では、安心して自分の素直な意見が出せるよう、学級の状況に合わせて名前を

伏せるなど出し合う方法や共有する方法に配慮する。

- ・一つの考えに集約するのではなく、それぞれの考えを受けとめながら進めていく。

8 展開

◇人権にかかわる配慮点

段階	学習活動	○発問	教師の指導 評価の視点	時	備考
導入	1. 結婚が人生の節目の1つにあたり、生きていく上で大きな喜びや糧になっていくことに触れる。 2. 現代にも根強く残る部落差別について確認し、本時の内容について理解する。	○人生の節目と言われる時は、どんなときでしょうか。 ○結婚するとき、理想とする相手の条件は？ ○このポスターの□には、どんな言葉が入ると思いますか？	・結婚について、生徒が描く結婚の理想像を自分なりに思い描く。 ・提出したカードは前を伏せ全体で共有する。 ◇どの意見も受容的に受け止める。 ・人権啓発ポスター提示 ・答えを掲示 ・資料①長野県「人権に関する県民意識調査」 ◇現在もなお差別に対する潜在意識があることを確認する。	10	ロイロ「道徳」 カード① ポスター資料①
社会に生きる一人として、どんなことを大切にすればよいのだろうか？					
展開	3. 「話してくれてありがとう」の資料を前半のみ読む ①前半の内容について構造的に確認。 ②出自を知らせる母の思いを考える。 ③差別を受ける苦しみや悔しさ、絶望感を感じ取る。	○なぜ、お母さんは娘に、出身のことを話したのだろう。 ○差別を受けたお姉さんの心境は、どうだったでしょうか。	・教師が範読する。 ・私と母のやりとりを構造的に示し確認する。 ・結婚差別を受けた姉のこともあり、娘への愛情から、勇気をもって出自を知らせる母の姿に触れる。 ・絶望し、食事もほとんど食べることができないほどの心境に共感させる。 ・告げる、告げないで、カードの色を変えて提出。 ・提出したカードを名前を伏せ全体で共有する。二つの立場のそれぞれの理由を丁寧に共有する。	10	資料②
	4. 被差別の立場に立ち、自分はどう行動するか考える。	○もし、あなたが筆者ならば、自分の出身のことを告げますか、告げませんか。	◇一つの意見に集約せず、どちらの意見も受容的に受け止める。 ・過去のこと、他人事とならないように、自分の生活とつなげて考えさせ、自分のメッセージが伝わるように考えさせる。 ・提出したカードを見ながら、全体で共有する。可能であれば、何人かに発表してもらう。	10	カード②
	5. 自分が差別事象に直面したとき、どう対処するかを考える。	○もし、説得するチャンスがあったら、差別をしてしまった家族に、あなたは何と言いますか。		10	カード③
終末	6. 本時の振り返り ①「話してくれてありがとう」の後半を読む ②ふりかえり	○この社会に生きる一人として、あなたは何を大切にしていきたいですか。	・資料③を教師が範読する。この著者の最後については多くを語らず、生徒たち自身で感じたことを大切にする。 ・差別に苦しむ人々の痛みを分かち合い、正しい学びや行動で部落差別解消へとつながることを見出させたい。	10	資料③ カード④

【評価】

- ・ 部落出身といだけで結婚を反対される不合理さについて、様々な立場から考えている。
- ・ 差別をなくすための行動の大切さについて、自分事として考えている。

中学部1ブロックⅡ組家庭科(人権・道徳)学習指導案

中学部1ブロックⅡ組技術家庭担当 芹沢 修

1 単元名 「ありがとう いのち」 ～幼児の生活と家族より～

2 設定の理由

妊娠された担任のY教諭が9月の終わりに産休に入った。それまで、生徒たちはY教諭の体のことを気遣ったりお腹の赤ちゃんの様子を訊いたりして、自分の幼い頃の様子を思い返しながら興味や慈しみの心をもって接している姿がみられた。そこで、自分が幼かった頃の夢や願い、生活の様子を振り返り、自分が生きてきたかけがえのない軌跡や、育み見守ってきた家族の存在の大切さに思いを馳せ、更に、自分や他者の命の重さや尊さを感じながら生活していくきっかけになるだろうと考え、本単元を設定した。

3 目標

生命誕生や成長に関わる動画を視聴したり、自分の幼い頃の思い出を振り返ったりすることや、赤ちゃんの世話やおもちゃ作りを体験したりすることを通して、家族の支えに感謝し、命の大切さについて考え、かけがえのない自分の存在に気付くとともに、互いを尊重して生活していこうとする気持ちをもつ。

4 展開の概要(全10時間)

時	月日	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1	10/16	「いのちの授業」の動画を視聴する ・誕生の仕組みを理解する。 ・命の大切さについて、自分なりに感じる。	・人はどのように生まれ、成長するのかという誕生の話を分かりやすく理解するために動画を視聴する。 ・動画の感想をスプレッドシートに記入し、自他の思いを共有できるようにする。	・興味をもって動画を視聴し、自分の思いを文章で表現しようとしている。
2	23	幼い頃を振り返る ・家族が妊娠中に気をつけたことや自分の名前の由来など、インタビュー調査したことを発表する。	・「幼い頃の思い出カード」を事前に配布し、家族にインタビューしてまとめる。	・調査したことを項目ごとに記入しようとしている。
3	30 指導案は別紙	赤ちゃんのお世話を体験する ・赤ちゃんの人形を抱いて、重みを感じる。 ・おむつ替えや着替えに挑戦する。	・長野県立大学健康発達学部こども学科准教授 春高裕美先生、同学科大学生数名をお招きし、赤ちゃん人形を抱いたりおむつ替えや着替えの仕方を教えていただいたりする。	・外部の方とコミュニケーションをとりながら、積極的に体験しようとしている。
4 ～ 9	11/6 ～ 12/11	赤ちゃんのおもちゃを作る ・獅子、でんでん太鼓、ひらひらハンガーを作ってみる。	・完成品の見本を準備し、仕上がりイメージを持つようにする。 ・スムーズに制作できるよう、示範したり手順表を見せたりする。	・楽しいおもちゃに仕上がるよう、創意工夫しようとしている。
10	12/18	「小さいいのちと家族の時間」の動画を視聴する ・命の大切さを再確認し、その「はかなさ」についても自分なりに感じる。 ・家族の存在に思いを寄せる。	・新しい命の誕生と、我が子の障害と余命を受け入れ、残された時間を家族としての絆を深めながら生きようとする姿から、命についてより深く考えられるようにする。	・興味をもって動画を視聴し、自分の思いを文章で表現し本単元をまとめようとしている。

5 生徒の感想から（抜粋）

（1）いのちの授業の動画を視聴するより

- ・あんなに小さい赤ちゃんが大きくなるなんてびっくりしました。
- ・赤ちゃんは、お腹にいるときから命があることが分かった。

（2）幼い頃を振り返るより

- ・自分の名前をこういう思いでつけてくれて嬉しかった。
- ・みんなの小さい頃の思い出を聞けて良かった。

（3）赤ちゃんのお世話を体験するより

- ・お母さんの大変さがわかった。
- ・3kgが予想より重くてびっくりしました。着替えさせるのが大変でした。

（4）小さいのちと家族の時間の動画を視聴するより

- ・コロナになる前は、赤ちゃんが NICU に入っても家族と一緒に過ごせたけど、コロナが流行ってから兄弟と居られなくなるのが可哀想だった。
- ・コロナで面会の時間が少なくなるのは悲しい。

6 成果と課題

○「人権・道徳学習」として、単独に或いは特設して授業をすることは、ねらいが焦点化できるという可能性が高まり、生徒は人権・道徳的な視点で思考を働かせようとする等の点において大切なことである。事実、各学校とも人権教育旬間等々の様々な名称で期間を特設して授業を行っているケースが多い。しかし、注意深く展開しないと、「人権・道徳を学ぶ」という形式的な学習に終始することになるかもしれない。大切なのは、「人権・道徳を学ぶ」ということより、むしろ「人権・道徳学習から学ぶ」姿勢ではないかと考える。それは、学んだことを日常の様々な場面で生かすことができるかどうか＝道徳的实践力が、我々に常に問われているからである。

今回、家庭科と人権・道徳学習の教科等の横断的な単元を仕組んだが、双方とも生活にかかわるものであり、それぞれの分野のつける力が自然と絡み合うことで、学習が螺旋状に高まったり深まったりしていくような相乗効果が感じられた。今後とも人権・道徳学習と他教科との関係性を大切にした授業を設定する取り組みを継続したい。

○確かな経験や知識に支えられた外部の方の支援は非常に有効であったように思う。単元全体の中で、1 時間だけでなくもっと継続的にかかわっていただけるような状況を設定できれば更によかった。また、今回は大学生との交流もあり、互いに貴重な時間になったと思われる。更に、生徒が製作した製品（折り鶴ストラップ）をプレゼントしたり、逆に大学生からハロウィンに使う手作りのお菓子入れをいただいたりして、授業以外の場面でも交流ができた点もありが良かった。

●生活年齢と発達年齢の両方に応じた教材研究(内容や展開)が更に必要だと思われる。今回は、おもちゃ作りからまとめの動画視聴への飛躍が大き過ぎ、或いは不自然であったため、生徒の記述からは、家族としての絆を深めながら生きようとする姿から、命についてより深く考える様子を見てとることができなかった。やはり、生徒の意識の過程や深まり度合いを見逃さず、より柔軟に内容を差し替えたり付け足したりする工夫が大切であることに気付かされた。それは、人権・道徳学習は、「常に自分の中に生きている」もので、教師側が設定した結論に導いていくような授業では決してないからであり、答えは全て生徒一人ひとり心の中に存在しているものであると考えるからである。

家庭科学習指導案

長野県立大学 春高 裕美
サポート こども学科3年生5名

1. 日時 令和5年10月30日（月曜日） 13:15～14:00
2. 学年 中学部1ブロックⅡ組7名（1年～3年）
3. 教科 技術家庭科（家庭：保育分野）
4. 単元 「ありがとう いのち」～幼児の生活と家族より～
5. 教材 教科書は使用しない
参考資料なし
持参品：乳児人形7体、オムツ・おしりふき・ビニール袋・ウェットティッシュ
リンス（軟便の見立て）、交換用衣服多めに準備

6. 指導観

1) 教材観

稲荷山養護学校の学習指導案（略案）参照

2) 生徒観

稲荷山養護学校の学習指導案（略案）参照

生徒一人一人の巧緻性・身体の可動域・知的能力など様々である。

3) 指導観

本単元は、生徒一人一人の経験を重視し、出来る限り生徒の力で演習を行う。

7. 本時の目標

- 1) 乳児人形の重さを感じ、命の尊さと自身の成長の過程を感じることができる。
- 2) 乳児のお世話（オムツ交換・衣服交換）を体験し、家族への感謝の気持ちをもつことができる。

8. 指導過程

	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意
導入	5分	1. 自己紹介 2. 既習内容の確認 3. 本時の内容について	挨拶 先週までの振り返りをおこなう 本時は乳児人形を抱いたり、乳児のお世話について体験することを説明する。 乳児のお世話の中でも、オムツ交換と衣服交換を実施することを説明する。	

展開		1. 乳児人形を抱っこする ・抱き上げる ・横抱きをする ・名前をつける ・重さを感じる ・自分の出生体重と比べる ・大泉門を触る 2. おむつ交換をする 3. 衣服を交換する 4. 手遊びを行う	・机に人形を寝かせ、抱き上げるところから体験する。サポートの必要な生徒には大学生が援助する ・名前をつける ・生下時体重であることを伝える ・自分の出生体重と比べる ・大泉門を触る 頭蓋骨の癒合がないことを確認する。 生まれてくる時のためである。 病気の兆候がわかる ・便を付着させた状態で、オムツを展開する。 ・おしりふきを用いて、便をぬぐう ・新しいオムツを装着する ・乳児に語りかける ・気持ち良くなったことを乳児と分かち合うことを「愛着」ということを伝える ・こうやって「心」が育っていくことを伝える。 ・乳児のために衣服を選ぶ 選ぶ楽しさを味わう ・今着ている衣服を脱がせる ・新しい衣服に着替えさせる ・乳児に語りかける ・乳児のふれあい遊びを行う	・性別を伝える 性器で判定しないようにする ・大泉門がわからない場合は指し示す。 ・自己導尿している生徒に配慮する。 ・女児→前から後ろ ・男児→陰囊の裏の拭き残しに留意する ・綺麗にすることよりも愛着の方が大事であることを強調して伝える ・次週に向けて手遊びをする
まとめ	5分	本時のまとめ 次回の予告	・本時の振り返りを行う 何人かにインタビューする ・次回は乳児のおもちゃを作ること伝える	

令和5年度 小・中・養護学校 人権教育の実践収録

発行年月 令和6年2月

発 行 千曲市・千曲市教育委員会・千曲市学校職員会

編 集 千曲市 健康福祉部 人権・男女共同参画課

〒387-8511 長野県千曲市杭瀬下二丁目1番地

TEL 026(273)1111

FAX 026(273)1924

E-mail: jinken@city.chikuma.lg.jp